京都市内遺跡試掘調査概報

平成６年度

京　都　市　文　化　観　光　局

序

昨年，京都は平安京が創建されて1200年という記念すべき年を迎えましたが，京都では，この年を21世紀に向けた飛躍の年として，伝統と創生をメインテーマに，多彩な記念事業やイベントが展開されました。

この記念すべき年に，市内を中心とした17の社寺・城が「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録されたことは，京都で守り継がれて来た文化財の数々が人類全体の貴重な財産として広く世界に認められたことを意味するものであり，歴史的にも意義あるものであったと考えております。

また，この年行われた埋蔵文化財調査により平安宮の内裏内郭回廊跡と大極殿基壇跡が検出されましたが，特に大極殿基壇跡は，奇しくも本市で平安宣言が行われた日に検出されるなど，偶然の巡り合わせとはいえ，感慨深いものがありました。

さて，今日都市の開発と文化遺産の保存との調和を図っていくことが，都市における重要な課題となっております。

私どもは，埋蔵文化財をはじめとする京都の文化遺産を貴重な「伝統」として，後世に伝えることが重要な責務であることを深く心に刻み込むとともに，かつてその時代時代の先人たちが力を尽くして「創生」したものが，今「伝統」となって受け継がれていることを踏まえ，今後とも，「伝統」を大切にしながら「創生」に努めていかなければならないと考えております。

本書は，京都市が平成６年度に文化庁の国庫補助を得て実施した，埋蔵文化財調査の概要報告書であります。発掘調査・立会調査につきましては，(財)京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであり，試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施したものであります。

終りに，埋蔵文化財調査にご協力いただいた市民の方々並びに，ご指導・ご助言いただいた関係各位に衷心より感謝致しますとともに，本書が少しでも京都の歴史を知るための資料として皆様のお役に立てれば幸いに存じます。

平成７年３月

京都市文化観光局長

例　　言

1　本書は，京都市が文化庁国庫補助を得て実施した平成６年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。

なお，本書は平成６年１月から12月まで実施した試掘調査の概要を報告している。

2　試掘調査を実施した総ての地区・所在地・調査日・調査概要については，試掘調査一覧表に掲載している。

3　本文の執筆分担は，文末に記している。

4　本書に使用した地図は，本市都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺１／2,500）を複製して調整したものである。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版１～13　１／8,000　　図版14～19　１／10,000

5　本書で使用した土壌色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

6　本書作成・調査実施にあたっては，京都市埋蔵文化財調査センターが担当し，次の機関の協力を得た。

京都市文化観光局文化部文化財保護課　（財）京都市埋蔵文化財研究所

図１　調査地区割図

目　　次

頁

Ⅰ　試掘調査の概要……1
1　調査の概要……1
2　地区別の調査概要……2
3　ま と め……7

Ⅱ　平安宮内蔵寮跡……8
1　調査経過……8
2　遺構・遺物……8
3　ま と め……9

Ⅲ　平安京左京四条一坊三町跡…10
1　調査経過……10
2　遺構・遺物……10
3　ま と め……12

Ⅳ　平安京左京四条三坊八町跡…13
1　調査経過……13
2　遺構・遺物……13
3　ま と め……14

Ⅴ　平安京右京三条二坊十一町跡 …15
1　調査経過……15
2　遺構・遺物……15
3　ま と め……17

頁

Ⅵ　平安京右京五条二坊五町跡…18
1　調査経過……18
2　遺　　構……18
3　遺　　物……19
4　ま と め……19

Ⅶ　植物園北遺跡……20
1　はじめに……20
2　No.63における調査 ……20
2－1遺構・遺物……21
2－2ま と め……21
3　No.64における調査 ……22
3－1遺　　構……22
3－2遺　　物……25
3－3ま と め……26
4　No.65における調査 ……27
4－1遺　　構……27
4－2遺　　物……28
4－3ま と め……28

Ⅷ　長岡京左京九条三坊跡……29
1　調査経過……29
2　遺　　構……29
3　ま と め……30

報告書抄録 ……35

図 版 目 次

図版1　平安宮
図版2　左京北辺・一・二・三条　一・二坊
図版3　左京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版4　左京　四・五・六条　一・二坊
図版5　左京　四・五・六条　三・四坊
図版6　左京　七・八・九条　一・二坊
図版7　左京　七・八・九条　三・四坊
図版8　右京北辺・一・二・三条　三・四坊
図版9　右京北辺・一・二・三条　一・二坊
図版10　右京　四・五・六条　三・四坊
図版11　右京　四・五・六条　一・二坊
図版12　右京　七・八・九条　三・四坊
図版13　右京　七・八・九条　一・二坊
図版14　上ノ段町遺跡・和泉式部町遺跡・井戸ケ尻遺跡・六波羅政庁跡・法住寺殿跡・史跡賀茂別雷神社境内・北白川廃寺跡・小倉町別当町遺跡・一乗寺向畑町遺跡・上久世遺跡
図版15　白河街区跡・岡崎遺跡・中臣遺跡・大宅廃寺跡・大宅遺跡・史跡醍醐寺境内
図版16　伏見城跡
図版17　伏見城跡
図版18　鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡
図版19　長岡京跡

挿 図 目 次

頁

図1　調査地区割図……例言
図2　平安宮と調査位置……8
図3　西端西壁土層図……8
図4　出土遺物(軒先瓦拓影及び実測図)……8
図5　平安宮内蔵寮跡範囲と調査位置……9
図6　平安京条坊図(調査位置)……10
図7　2トレンチ南端東壁土層図……10
図8　3トレンチ北寄り東壁土層図……11
図9　平安京左京四条一坊三町跡範囲と調査位置……11
図10　トレンチ位置図……11
図11　出土遺物実測図……12
図12　平安京条坊図(調査位置)……13
図13　調査地位置図……13
図14　トレンチ位置図……14
図15　軒丸瓦拓影・実測図……14
図16　土器実測図……14
図17　平安京条坊図(調査位置)……15
図18　南壁西端土層図……15
図19　平安京右京三条二坊十一町跡範囲と調査位置……16
図20　検出遺構平・断面図……16
図21　出土土器実測図……16

頁

図22　平安京条坊図(調査位置)……18
図23　調査地位置図……18
図24　トレンチ位置図……19
図25　土器実測図……19
図26　調査地位置図……20
図27　トレンチ配置図……21
図28　トレンチ西側溝部分土層図……21
図29　検出遺構平・断面図……21
図30　調査区東側土層図……22
図31　検出遺構平・断面図……24
図32　掘立柱建物1平・断面図……24
図33　竪穴住居2平・断面図……24
図34　土壙5平・断面図……25
図35　土器実測図……25
図36　トレンチ配置図……27
図37　検出遺構平・断面図……27
図38　トレンチ中央西側土層図……27
図39　土器実測図……27
図40　調査地位置図……29
図41　遺構実測図……29
図42　石垣立面図……30

表 目 次

頁

表1　地区・年度別試掘調査実施件数一覧表……1
表2　試掘調査一覧表……31～34

写 真 目 次

頁

写真1　トレンチ完掘状況(西から)……9
写真2　試掘調査前(東から)……9
写真3　1トレンチ出土の板材(南から)……12
写真4　3トレンチのピット(北から)……12
写真5　トレンチ写真(北から)……17
写真6　拡張部分検出の溝状遺構(北から)……17
写真7　調査区全景(北から)……23
写真8　竪穴住居2全景(北から)……23
写真9　溝3遺物出土状況(北西から)……23
写真10　石垣全景(西から)……30

Ⅰ　試掘調査の概要

1．調査の概要

京都市内に存在する周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる各種土木工事や，史跡指定地内での現状変更申請に伴う工事計画に先立ち，埋蔵文化財の残存状況を事前に掌握する目的で行われる試掘調査は，平成３年度から京都市埋蔵文化財調査センターが実施してきたところである。

本書は，当センターが平成５年度（平成６年１～３月末）から平成６年度（４～12月末）の１年間にかけて実施した，国庫補助を伴う試掘調査の結果をまとめた概要報告である。

試掘調査を実施した件数は，現状変更に伴う史跡指定地内の３件を含めて合計100件である。

ここでは試掘調査地区内の遺跡で実施された発掘調査の成果も合わせて簡略に紹介するが，特に調査機関名を明記していないものは（財）京都市埋蔵文化財研究所が実施したものである。

表１　地区・年度別試掘調査実施件数一覧表

分　類	区　域　名	１～３月末	４～12月末	計	発掘指導	設計変更
埋蔵文化財						
	平安宮地区	5	11	16	2	－
	平安京左京地区	5	15	20	3	－
	平安京右京地区	5	13	18	3	－
	太秦地区	－	3	3		－
	洛北地区	－	3	3	－	－
	北白川地区	－	8	8	1	1
	洛東地区	－	6	6	－	1
	伏見・醍醐地区	－	9	9	1	－
	鳥羽地区	1	3	4	－	1
	南・桂地区	1	1	2	－	－
	長岡京地区	1	7	8	－	－
史跡指定地						
	醍醐寺境内	1	1	2	－	－
	賀茂別雷神社境内	－	1	1	－	1
	合　計	19	81	100	10	4

2．地区別調査概要

平安宮地区

最近の平安宮跡内の埋蔵文化財調査は，遺構の推定場所が不確定であった従前とは異なり，文献・古絵図など既知の資料に加え，既往の調査結果に基づいた基準点測量の成果などの情報から，事前測量成果や，あるいは現況地形図上に復元位置を重ねた図等を利用することで，調査前にその場所における宮殿・官衙の位置を概ね知ることも可能となってきている。

このような状況から，埋蔵文化財の調査も，重要遺構検出が予想される場所を狙って調査することも可能となり，いくつかの場所では重要な調査成果がもたらされている。

平安宮地区で実施した試掘調査場所を宮殿・官衙別でまとめると，朝堂院１・豊楽院２・内裏２・中和院１・大蔵２・中務省１・内蔵寮１・宮内省１・武徳殿１・宴松原１・南所（聚楽第）１・茶園（聚楽第）１・主殿寮（聚楽第）１の合わせて16件となる。

このうち試掘調査結果から宴松原跡と中務省跡の２件について発掘調査の指導を行った。

まず中務省地区では，西限推定地（上京区下立売通千本東入中務町）の試掘調査結果から，京都市の国庫補助を伴う発掘調査が実施され，中務省西限を区画する築地遺構を確認している。またその東方で行われたマンション計画場所（上京区下立売通千本東入中務町）の試掘調査(1993年実施）では，中務省を区画するとみられる築地状遺構を確認したため発掘調査を指導。その結果，中務省東限築地遺構の一部を検出する成果を上げている。

そのほか上京区下長者町通七本松西入にある浄篤院境内の武徳殿跡の試掘調査では，遺物包含層を発見したことから，国庫補助を伴う発掘調査を指導。飛鳥時代の土壙・建物・柵跡などを検出し，遷都前の平安宮地区を知る上で重要な成果を得ることができた。

これ以外にも豊楽院地区や内裏地区ほかで試掘調査を実施しているが，発掘調査に至る重要遺構や遺物は検出していない。これは平安宮地区において部分的に官衙・宮殿の遺構や遺物包含層が検出される一方，桃山時代の聚楽第築城に伴う堰などの開削や，またその後の破却のほか，後世の土取りや盛土などによって，遺構が既に破壊されている場所が多いことを物語っている。

平安京遷都1200年目の年に当たる平成６年には，(財）京都市埋蔵文化財研究所が平安宮地区のいくつかの場所において埋蔵文化財調査を実施し，重要な調査成果をあげているので，ここで簡単に紹介しておきたい。

朝堂院地区では，京都市の国庫補助を伴う朝堂院宣政門跡推定地（上京区竹屋町通千本東入主税町）の発掘調査が実施され，宣政門基壇東端凝灰岩列及び西端（凝灰岩抜き取り穴）の一部が発見されて，朝堂院復元に重要なポイントを提供する調査結果となった。

また平安宮を南北に分断する形で通る千本通りでは，今出川通り交差点から丸太町通り交差点に向けて道路改修工事が計画され，それに伴う埋設管入れ替えや電柱付け替え工事なども行われた。これら一連の工事は，朝堂院北域・中和院・内膳司・内蔵寮など，宮殿・官衙の中枢部に当たることから，工事前及び工事中に際して綿密な立会調査や遺構確認調査が実施されている。

特に平安宮地区でも重要な施設である大極殿跡の推定場所は，千本通りと丸太町通りの交差点北側付近に位置することから，昼間は交通量も多く遺構確認が困難なことから，調査場所を限定して夜間調査も実施され，初めて大極殿の基壇土を発見するという大きな成果を上げている。

これら一連の調査で確認された主な検出遺構は，大極殿基壇南限及び基壇地業跡，大極殿院北回廊基壇跡，内蔵寮南限築地跡及び溝跡などで，平安宮を復元する上で極めて重要な遺構が多い。

そのほか内裏地区では，従前より内裏内郭回廊の西辺遺構の存在が予測されていた場所（上京区下立売通千本東入田中町）で，京都市の国庫補助を伴う発掘調査が実施され，予想通りに内裏内郭回廊（築地回廊）内廷部分の南北凝灰岩基壇（地覆石）及び雨落溝が良好な状態で検出され，さらに10世紀中頃の火災の痕跡も確認されるという大きな成果があった。

平安京左京地区

左京地区では合わせて20件の試掘調査を実施し，そのうち重要遺構が見つかった３件について発掘調査を指導した。

まず六条四坊十町（下京区五条通河原町西入本覚寺前町）の河原院跡（左大臣源融邸）と推定される場所の試掘調査では，敷地南方で分厚い平安時代の遺物包含層を検出したため発掘調査を指導。その結果，邸宅内の園池跡とみられる池状遺構が検出された。

二条二坊二町（上京区竹屋町通猪熊西入藁屋町）の試掘調査では，中世の柱穴や土壙・溝跡を検出し，さらに七条三坊十町（下京区烏丸通七条上る常楽町）の東本願寺境内の試掘調査では，平安時代・室町時代の遺物包含層を検出したため，それぞれ発掘調査を指導した。

そのほかの地域においても，数箇所から平安時代から中世期にかけての遺物包含層や土壙などを検出しているが，いずれも遺構が部分的にしか残っていないものや，後世の攪乱が多い場所などがあり，発掘調査には至っていない。

京都御苑の西に当たる一条三坊九町（上京区烏丸通下長者町下る龍前町）では，平安時代前期の遺物を含む土壙，中世期の堀跡などのほか，江戸期の水戸藩邸に関係するとみられる多数の遺構や遺物が見つかっている。

四条三坊十六町（中京区六角通烏丸東入）に当たる頂法寺（六角堂）境内では，（財）古代學協會が発掘調査を実施し，平安時代後期の遺構面や四行八門制に伴うとみられる区画遺構のほか，下層からは縄文・弥生時代の遺物を包含する自然流路跡を発見。また現存する太子堂の下からは旧太子堂に関するとみられる遺構も見つかっている。

六条三坊七町と六条坊門小路（下京区小田原町・東錺屋町）で行われた（財）京都府文化財団・京都府京都文化博物館による発掘調査では，幾層にもわたる六条坊門小路の路面のほか，側溝・築地・井戸・土壙など1,000弱を数える多数の遺構が見つかっている。

ＪＲ京都駅ビル工事に伴う八条三坊（下京区烏丸通塩小路下る京都駅構内）一帯の発掘調査では，特に室町小路を中心とした中世町屋（工房跡など）の遺構が見つかり，比較的まとまった面積の調査により，平安京の変遷を知る上で重要な情報を提供する調査結果が出ている。

三条三坊十五町（中京区東洞院通御池上る船屋町）で，関西文化財調査会が実施した発掘調査

では，平安時代から鎌倉時代にかけての東洞院大路西側溝跡を確認し，また大規模な江戸時代の土壙から出土した大量の遺物（陶磁器・木製品・金属加工された金具類など）から，17世紀初頭の，いわゆる中京の町屋成立期の状況を知る上で重要な調査成果があった。

平安京右京地区

右京地区では18件の試掘調査を実施し，そのうち重要遺構が見つかった３件について発掘調査を指導した。

試掘調査で重要遺構が確認された五条四坊十二町跡（右京区西院月双町）では，発掘調査の結果，弥生後期の竪穴住居跡・方形周溝墓，古墳時代倉庫跡，奈良時代掘立柱建物跡などが見つかり，出土遺物の中には古墳時代の三輪玉（太刀飾り）などの珍しい遺物も含まれ，右京域における平安京遷都前の人々の生活を復元する上で貴重な成果をもたらした。

九条二坊二町（南区唐橋平垣町）の試掘調査では，条坊に伴う西堀負小路関連の溝跡が確認され，発掘調査を指導した結果，平安時代前期の路面及び側溝，邸宅内への橋跡のほか，銭貨・木簡などの遺物も出土している。

九条二坊九町（下京区七条御所ノ内南町）では，弥生時代の遺物包含層を確認し，また近世から近代に至る西堀川の変遷や構造を解明する遺構も見つかっている。

そのほか八条二坊二町（下京区西七条石井町）に該当する京都市立七条小学校の発掘現場からは，西堀負小路（路面）と東・西側溝跡が良好な状態で検出され，多数の遺物とともに掘立柱建物跡や橋跡の遺構のほか，四行八門制に相当する区画遺構が初めて明確な形で見つかっている。多彩な出土遺物を含めて，平安京における官営市場である西市の南方近郊の庶民生活を復元するうえで重要な調査成果となった。

八条二坊十一町（下京区七条御所ノ内中町）では，９～12世紀にわたる建物・井戸・溝などが多数見つかり，まだよく解明されていない平安時代後期に於ける右京の変遷を知る上で重要な資料を提供した。

そのほか右京地区では，区画整理事業や地下鉄東西線建設に伴うＪＲ二条駅構内（右京区西ノ京椿尾町ほか）で何箇所かの埋蔵文化財調査が行われ，種々の平安京関係の遺構が見つかっている。

太秦地区

この地区では上ノ段遺跡・和泉式部遺跡・井戸ケ尻遺跡の３件の試掘調査を行ったが，重要遺構や遺物は検出していない。

洛北地区

この地区では，現状変更に伴う史跡賀茂別雷（かもわけいかづち）（上賀茂）神社境内１件を含む４件の試掘調査を行った。

このうち３件は植物園北遺跡の試掘調査で，古墳時代の柱穴や溝跡などの遺構を検出したため，設計変更を指導して遺構保存を図ったもののほか，左京区下鴨南茶ノ木町では，検出遺構が極めて浅いことから，施主の協力を得て試掘調査を延長し，遺構調査を完了した。（本文に報告）

そのほか植物園北遺跡（北区上賀茂松本町）では，国庫補助による発掘調査も実施されている。

また現状変更許可申請に伴う史跡賀茂別雷神社境内東方（北区上賀茂本山）の試掘調査では，地表下1m余りから須恵器・緑釉陶器片など若干の遺物が出土したことから，計画建物の設計変更が検討されている。

北白川地区

この地区では六勝寺跡（法勝寺・尊勝寺）2・白河北殿跡1・白河街区跡2・小倉町別当町遺跡1・北白川廃寺1・一乗寺向畑町遺跡1の合計8件の試掘調査を実施し，白河街区跡1件について発掘調査を指導した。

白河街区跡の試掘調査では，史跡聖護院旧仮皇居の南方（聖護院円頓美町）で，土と河原石を交互に敷いて堅牢に積み上げた建物の地業跡とみられる遺構が見つかり，発掘調査を指導した結果，平安時代後期以後の建物基壇跡（地業跡）であることが明らかとなった。

そのほかの白河街区跡及び六勝寺跡の試掘調査では，明確な遺構や遺物は検出していない。

小倉町別当町遺跡(左京区北白川別当町）では，平安時代の土壙1箇所を検出している。

また北白川廃寺の塔跡では，これまでの調査結果から，塔跡をはずした場所に計画建物（基礎の浅い）の設計変更を指導し，試掘調査を行った上で遺構の保存を図った。

この地区で行われた発掘調査では，京都大学埋蔵文化財研究センターが左京区吉田本町にある京都大学総合人間学部(旧教養部構内遺跡）構内の発掘調査を実施し，弥生時代前期の水田遺構，古墳時代の方墳，奈良時代の掘立柱建物跡や井戸跡，平安時代中期の梵鐘鋳造遺構のほか，中世の密集した柱穴跡など，永年にわたる多数の遺構が検出された。この調査により当該地における人々の生活の変遷が明らかとなったほか，平安時代における鋳造工房の実態を解明する上で重要な調査結果となった。

また京都大学北部構内遺跡（左京区北白川追分町）の発掘調査では，縄文土器や石器のほか，平安時代の遺物や中世～近世の道路跡，溝跡などが見つかっている。

小倉町別当町遺跡（左京区北白川別当町）に当たる京都市立北白川小学校では，体育館建替工事前に試掘調査が（財）京都市埋蔵文化財研究所によって実施され，その後の発掘調査で，飛鳥時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり，近くにある北白川廃寺との関連やこの付近の集落の変遷を知る上で貴重な成果があった。また出土遺物には，飛鳥時代の遺物とともに京都市内では初めての出土とされる無文銀銭（これには「高志」と「T」字形の陰刻が施されている）や，また瓦塔や唐三彩など，この付近としては珍しい遺物が目を引く。そのほか同小学校東側で行われた試掘調査では，遺物のほか有力な遺構は確認されなかった。

洛東地区

この地区では6件（六波羅政庁跡3・法住寺殿跡1・中臣遺跡1・大宅廃寺1）の試掘調査を実施した。

このうち3件実施した六波羅政庁跡では，有力な遺構や遺物は確認していない。

法住寺殿跡（東山区耳塚通正面下る塗師屋町）では，平安時代後期の南北築地遺構（南隣の敷地の発掘調査で確認されている築地遺構の続き）が検出されたため，設計変更により遺構の保存

を指導した。

そのほか中臣遺跡や大宅廃寺で実施した試掘調査では，部分的に遺構や遺物を検出したが，発掘調査を必要とするような遺構・遺物は発見していない。

この地区における発掘調査では，安祥寺下寺跡推定地に当たる山科駅前周辺地区（山科区安朱桟敷町ほか）の市街地再開発事業に伴う発掘調査で，この付近では初めての縄文時代晩期の甕棺や7世紀代の竪穴住居跡2棟が見つかり，さらに平安時代前期の柵列や，中期・後期の掘立柱建物跡，後期の南北の溝跡・柵など，幅広い年代の遺構・遺物が見つかっている。

中臣遺跡(山科区栗栖野中臣町ほか）では，縄文時代晩期の甕棺や土壙・柱穴と考えられる遺構のほか，同遺跡ではこの時期のものとしては初めて確認された古墳時代の竪穴住居跡15棟（7世紀前半から後半頃，6世紀代も含む）や掘立柱建物跡3棟，そのほか中世の建物跡や室町期に埋葬された蔵骨器なども見つかっている。

同じ中臣遺跡（山科区栗栖野中臣町・東野舞台町）の街路建設場所（この地区で最も標高が高い）の調査では，後世の攪乱(墓地）や削平があって，重要遺構は検出されなかった。

そのほか京都国立博物館西門改札施設工事に伴う六波羅政庁跡（東山区茶屋町）の発掘調査では，平安時代後期の井戸のほか，同時代から江戸期に至る柱穴・土壙・井戸跡などの遺構が見つかっている。

伏見・醍醐地区

この地区では，史跡醍醐寺境内2件（同じ場所）と伏見城跡9件の11件の試掘調査を実施した。

史跡醍醐寺境内では現状変更許可申請に伴う試掘調査を理性院境内で行ったが，有力な遺構・遺物は発見できなかった。

伏見城跡では9箇所で試掘調査を実施した結果，伏見区桃山町遠山のＪＲ奈良線脇の南向き斜面地において，部分的に石垣石を検出したため発掘調査を指導。関西遺跡調査会が発掘調査を実施した結果，東西方向へ延びる石垣の一部を検出している。

そのほか伏見城跡では有力な遺構や遺物は検出していない。

鳥羽地区

この地区では鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡にかかる4件の試掘調査を実施した。

鳥羽離宮跡では，河川や湖沼跡を示す砂礫や腐食土層を確認する程度の場所のほか，下層に古墳時代の遺物包含層を確認した場所もあるが，いずれもはるか基礎下に遺構が保存されるため，確認調査段階で終了している。また竹田内畑町では地表下45cmほどの場所から盛土状遺構（地業跡）及びその下層から平安時代後期の池跡を発見している。

南・桂地区

この地区では上久世遺跡で2件の試掘調査を実施した。

試掘調査では重要遺構は検出されていないが，平成5年に試掘調査を行って発掘調査を指導した南区上久世町の現場からは，集落跡を示す弥生時代から古墳時代にかけての複数の竪穴住居跡や溝跡が検出された。

長岡京地区

この地区では長岡京跡で8件の試掘調査を実施した。

長岡京跡に入る伏見区納所町（桂川左岸）では，淀城の城下町家に関係するとみられる江戸時代の石垣を見つけている(本文に報告)

そのほかの7件では，部分的に溝跡や柱穴などを検出しているが，発掘調査に至る重要遺構は検出していない。

この地区で行われた発掘調査では，長岡京左京一条三坊十一町（南区久世東土川町）の久世ポンプ場敷地内の調査で，古墳時代前期から長岡京期にかけての流路跡(中世に埋没したと思われる）が見つかり，中から古墳時代の須恵器や長岡京期の遺物が出土している。

また埋立地造成に伴って広範囲に継続発掘調査が実施されている伏見区淀水垂では，中世の池跡とそれに伴う木樋暗渠が見つかり，木樋には丸木舟を転用した木材が使用されていることが判明，さらに古墳時代の川跡や集落に伴う竪穴住居跡，平安時代の川跡なども見つかっている。

そのほか同地区のポンプ施設建設工事現場からは古墳時代の竪穴住居跡や，中世の水路跡も見つかり，この付近一帯は長岡京期以外の遺跡存在密度が高いことがより鮮明となってきた。

3．ま　と　め

以上のとおり当センターが実施した試掘調査の結果と，各調査機関が実施した立会・試掘・発掘調査の成果を交え平成6年の概略を簡略にまとめてみたが，当センターが実施した100件の試掘調査の内，半数以上の54件が平安宮を含む平安京跡で占められ，特に市街地内に位置するこの地域で多くの開発工事が行われていることを物語っている。

平成6年で特筆すべき調査成果としては，初めて朝堂院の正殿である大極殿跡を確認できたことであり，さらに宣政門の遺構検出も重要な成果となった。そのほか遺構が良好に残っていた内裏内郭回廊西辺基壇跡や，中務省跡・内蔵寮跡などの調査を含め，平安宮を復元解明する上で重要なポイントをいくつかの場所で確認できたことは大きな成果といえる。

そのほか平安京跡では，条坊内における四行八門制を示す区画遺構が明らかになるなど，いずれも平安遷都1200年を記念する年に相応しい調査成果といえるものである。

平安京跡以外の周辺部の遺跡においても，当初は単純な遺跡とみられていたものが，発掘の結果，時代の異なる遺構や遺物が相次いで発見されて複合遺跡となり，その土地における人々の生活の変遷がより明確になってきた遺跡などもあり，今後付近の調査成果が大いに期待されるところである。

II　平安宮内蔵寮跡　No. 4

1．調査経過

試掘調査を行った場所は，京都市上京区千本通下長者上る革堂前ノ町111番地で，千本通りに面した西側165.82㎡の東西に長い敷地である。

当該地は平安宮復元モデルから内裏地区北方の内蔵寮に該当し，寮の中心部やや西寄りの位置と推定される場所である。

当該地に1階建築面積125.51㎡の自社ビルを建設する計画が持ち上がったことから，事前に試掘調査を実施した。

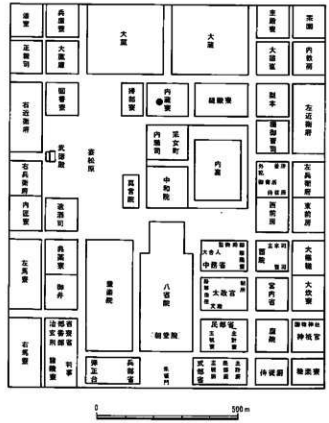


図2　平安宮と調査位置

2．遺構・遺物

土層　表土付近は，一部調査前に解体された旧美容室の建設工事の時の攪乱を受けていたが，地表下50cm程で黒褐色粘質土層が20～30cmの厚さで堆積し，さらに地表下90cm余りで砂礫の地山となることから，この地山の上にある黒褐色粘質土層が平安時代の遺構面と考えて遺構の検出を試みた。

その結果，トレンチ西側で平安時代の瓦が混入している瓦溜め（直径90cm，地表下深さ90cmほどの穴）を検出し，穴からコンテナ2箱ほどの平安時代の遺瓦が出土した。

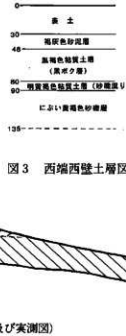


図3　西端西壁土層図

トレンチ内では，黒褐色粘質土層を中心に精査を行ったが，この粘質土層は部分的にしか残っておらず，トレンチ内のほとんどが砂礫層の地山まで達する江戸時代から近代に至る攪乱が存在し，当該敷地においては平安時代の遺構面が残存する

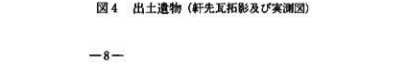


図4　出土遺物（軒先瓦拓影及び実測図）

可能性は低いと判断した。

遺物　敷地の西側で検出した瓦溜めからは，コンテナ2箱ほどの遺瓦が出土したが，その大半は内曲面に布目圧痕を有する平・丸瓦で，中に1点，文様不明の接合式軒丸(鐙)瓦(図4)の破片が出土した。作瓦技法も粗雑で平安初期のものとは考えにくい。

出土遺物はこれ以外に，遺構に伴うものや，時代を明確にできるものはない。

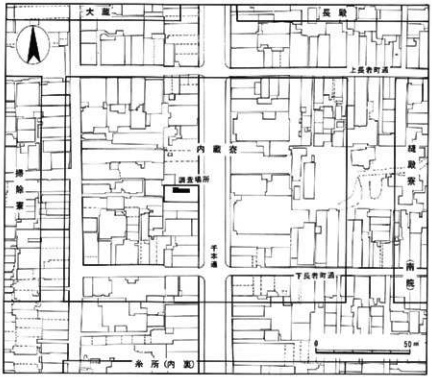


図5　平安宮内蔵寮跡範囲と調査位置

3．ま と め

調査の結果，平安時代の遺構面とみられる整地土は部分的にしか残っておらず，内蔵寮の遺構検出には至らなかったが，最近付近の立会調査において，寮を区画する溝跡なども見つかっており，この付近でも丁寧な調査を重ねれば，遺構検出が望める可能性もある。　(梶川　敏夫)

写真1　トレンチ発掘状況（西から）

写真2　試掘調査前（東から）

Ⅲ　平安京左京四条一坊三町跡　No.12

1．調査経過

試掘調査を行ったのは，錦坊城児童公園の通りを隔てた南に当たる京都市中京区壬生御所ノ内町16,16－2の約647㎡の土地で，ガレージとして使用されていた敷地西半に，マンション建設計画がもちあがったため，事前に試掘調査を実施したものである。

当該地は平安京の条坊復元モデルから，四条大路を北に上がった朱雀大路に面した東側の邸宅で，平安京左京四条一坊三町に該当し，敷地は推定三町の南限築地（南は錦小路）の北寄り側に予想される。

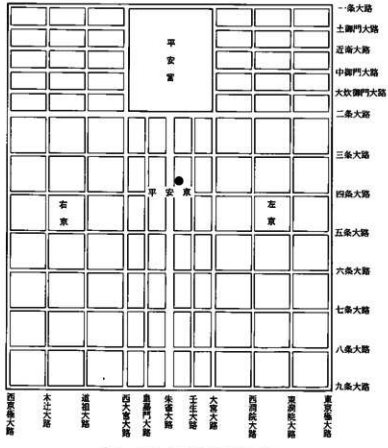


図6　平安京条坊図（調査位置）

試掘調査は解体工事の都合で，平成5年12月8日と翌平成6年2月2日の2回（2日）にわたってトレンチを3箇所設定して調査を実施した。その結果，平安時代の遺物包含層及び同期の遺物を含む池状の堆積泥土を確認して調査を完了した。

2．遺構・遺物

層序　敷地全体に地表下50～60cmまでは，近・現代の盛土で，石炭ガラや廃材が混入していた。

この盛土下には旧表土があり，1m前後で砂礫の地山となるが，その間に平安時代の遺物包含層及び池状の堆積土が存在する。

そのほか部分的ではあるが，盛土の浅い場所では50cm前後に旧耕作土（近世か）があり，その上層に平安時代の遺物を含む黄褐色粘質土が存在する。

これは近代において，付近の平安時代遺物包含層を掘り返し，その土を使って旧耕作土の上に盛り土がなされたことを物語っている。

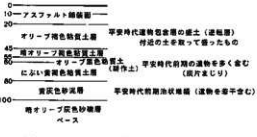


図7　2トレンチ南端東壁土層図（1/40）

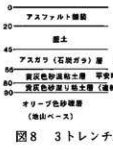


図8　3トレンチ北寄り東壁土層図

南側の東西トレンチ（1トレンチ）内からは，黄褐色粘質土を切って加工痕のある板材が1点見つかっている。材質は明らかではないが板状に加工され，長さ142cm，幅17cm，厚さ3cm程あり，そのすぐそばには砂礫ベースに達する木杭が3本見つかっていることから，橋遺構とも考えられる。

そのほか遺構面とみられる黄褐色粘質土が存在する場所の上面には土師器・緑釉陶器・須恵器・瓦片などを含む平安時代の遺物包含層が存在する。

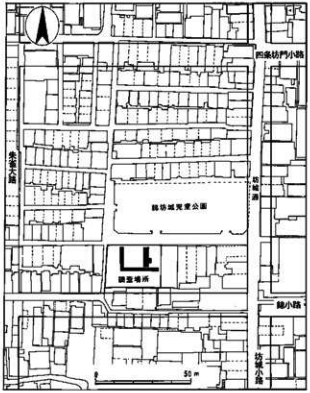


図9　平安京左京四条一坊三町跡範囲と調査位置

第3トレンチの中央付近で2箇所，柱穴とみられるピットを検出したが，建物に伴うものかどうかは定かでない。

遺物　出土遺物は，土師器・須恵器・緑釉陶器などの土器類や布目瓦など，いずれも平安時代のもので，各トレンチから合わせてコンテナに約2箱出土した。

出土遺物は池状遺構の底部と，それを埋め立てた整地層，さらに近世以降に付近の平安時代遺物包含層を掘り返して盛土したとみられる土層から出土したものである。

土器類は，ほとんどが池状の土地を埋め立てた整地層から出土し，さらにその底部からも若干の細片が出土している。

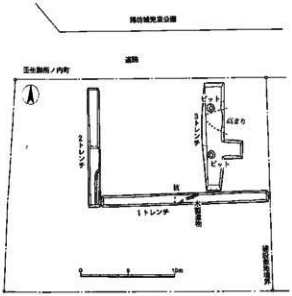


図10　トレンチ位置図

そのうち土師器類は破片が多く，実測できるものは少ないが，10世紀前後の平安時代中期を中心とした遺物（土師器）が注目される。（図11－1，2）

緑釉陶器は椀底部の破片が若干数出土している。その中に1点，埋め立てられた整地層から出土したものに，底部に墨書を有するものがあり，10世紀前半の丹波篠窯の製品（図11－3）と考

えられる。[1] 墨書については現時点では判読はできていない。

そのほか須恵器破片や布目瓦なども若干量出土している。

図11　出土遺物実測図（1/4）

3．ま と め

今回の試掘調査では，遺構の性格を明確にはできなかったが，遺物を含む整地土（黄褐色粘質土層）と，その下にある砂礫ベースとの間には薄い砂層が存在し，湿地状（池か）であった土地を平安時代中期の遺物や焼炭を含んだ土で埋め立てたものと考えられる。

この整地土に焼炭の細片を含むことは，言い換えると火災などの後始末に伴って邸宅内にある池状の窪地を，付近の土を使って埋め立てて宅地化されたものとも考えられよう。

今回の調査地は平安京の中央部付近の朱雀大路に面した東側に当たり，『拾介抄』などから，一町北側（一坊二町）には平安時代中期の散位従四位下大江公仲邸があり，さらに一町南側（一坊四町）には，平安時代後期の権中納言源国信の邸宅が存在したことがうかがえ，さらに朱雀大路を隔てた西側は朱雀院に当たるものの，当該地における居住者は不詳である。

このように位置的にも，当該地には一町以上を占有するような高級貴族の邸宅が存在した可能性があり，平安時代中期以前，この付近に池が存在していたことが明らかとなれば，当時の邸宅を復元する上からも，今後の付近の調査に期待がもてる場所ともいえる。　（梶川　敏夫）

註

1）平尾政幸氏の御教示による。

写真3　1トレンチ出土の板材（南から）

写真4　3トレンチのピット（北から）

Ⅳ　左京四条三坊八町跡　No. 52

1．調査経過

調査地は，中京区三条通室町西入衣棚町に所在し，三条通に面した南側の敷地である。平安京の条坊では左京四条三坊八町に該当する。この地にマンション建設が計画されたため平成6年5月23日・6月15日の二日にわたって調査を実施した。調査は南北方向のトレンチを2箇所設定し，平安時代の土壙，室町時代の土壙などを発見した。

2．遺構・遺物

調査地の基本層序は，GL－0.9mで室町時代の遺物包含層，GL－1.0mで地山の暗褐色砂泥となる。

発見した主な遺構には，1トレンチで平安時代の土壙1基（土壙1），鎌倉時代の土壙1基（土壙3）室町時代の土壙1基（土壙4）・溝状遺構1条（溝2），2トレンチでは平安時代の溝1条（溝5）が挙げられる。

土壙1　南北長1.3m・東西長0.8m以上の規模がある土壙状遺構で，一部近世の土壙によって削平されている。埋土内からは平安時代中・後期の遺物が混在して出土した。出土遺物には土師器・緑釉陶器・須恵器・瓦類などがあり，図16－11は須恵器の片口鉢である。

溝5　平安時代後期の東西方向の溝である。溝の幅は約1.1m，深さは0.4mあり，土師器皿が僅かに出土した。

土壙3　南北長0.8m・東西長0.5m以上の大きさの土壙である。埋土内からは鎌倉時代の土師器とともに，平安時代中期の瓦類が若干出土

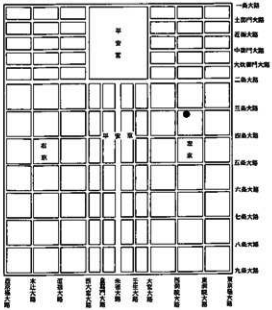


図12　平安京条坊図（調査位置）

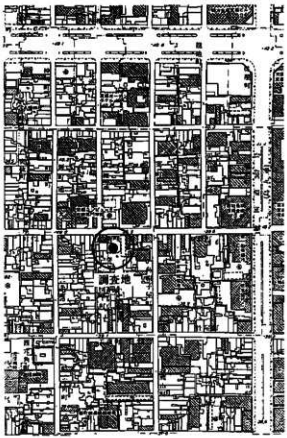


図13　調査地位置図（1/5,000）

した。図16－4・5は土師器の皿で，4は口径9.3cm・器高1.4cmを測り，底部がやや凹む。5は口径13cm・器高2.7cmを測る。図15は単弁（十）弁蓮華文軒丸瓦で外区に小さな珠文を配する。表面が磨耗しているため調整痕は不明であるが，瓦当裏面にわずかに布目痕が残る。

土壙4　土壙3の南で発見した南北長2.8m・東西長0.5m以上の不定形な土壙である。埋土からは室町時代前期の土師器が出土した。図16－1～3は小型の土師器の皿で口径7.6～8.3cm・器高1.1～1.4cm。図16－6・7は白色系の土師器皿で口径12.3～12.6cm・器高2.7～3.3cmである。

溝2　幅約3.2mの東西方向の溝状遺構である。埋土からは室町時代中期の土師器が出土した。図16－8～10は土師器の皿で，口径12～13.8cm・器高2.2～(2.9)cmを測る。

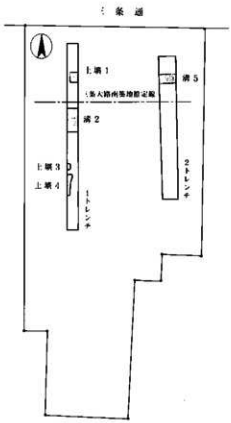


図14　トレンチ位置図（1：500）

3．ま　と　め

調査地を含む四条三坊八町の平安時代における宅地利用については，判然としていない。東隣の九町では，平安時代後期になると三条桟敷殿が営まれ，園池の一部が発掘調査でも確認されている。本調査では，邸宅あるいは園池の存在は確認できなかったが，2トレンチで検出した東西溝は，三条大路南築地側溝に推定することができる。

（長谷川行孝）

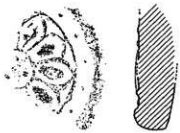


図15　軒丸瓦拓影・実測図（1/3）

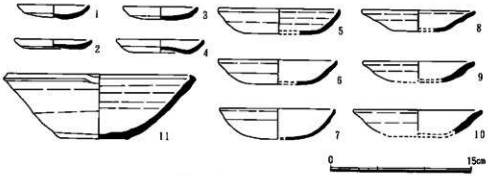


図16　土器実測図（1/4）

V　平安京右京三条二坊十一町跡　No.32

1．調査経過

現場は，西大路御池交差点を西入る一筋目の交差点南西角の土地で，住所は中京区西ノ京下合町29－1，マンション計画に伴う事前試掘調査として実施した。

当該敷地は平安京復元モデルによると，西限を野寺小路，北限を三条坊門小路，南限を姉小路，東限を西堀川小路に囲まれた，三条二坊十一町の北限やや東寄りの邸宅内及び三条坊門小路南側溝付近に該当する。

試掘調査では，この三条坊門小路と側溝及び邸宅内の遺構残存状況確認を目的に，南北方向にトレンチを設けて機械掘削し，遺構検出を試みた。

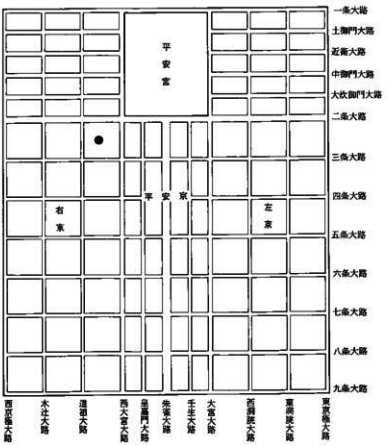


図17　平安京条坊図（調査位置）

2．遺構・遺物

遺構　土層は表土下20cmに氾濫堆積の砂礫が約40cmあり，その下に薄い微砂層と泥土層が存在する。さらに地表下約75～90cmほどに平安時代の遺物を包含する黒褐色粘質土があり，それ以下は明黄褐色粘質土の地山となることから，遺物包含層である黒褐色粘質土層を掘り下げ，地山とみられる明黄褐色粘質土の面で遺構検出を行った。

図18　南端西壁土層図（1/40）

トレンチの北端で，北へ下がりぎみの落ち込み肩部を検出したが，これは三条坊門小路の南側溝か，邸宅内の内溝とも考えられるが，北へのトレンチ拡張が困難なため，はっきりしない。

トレンチ中央付近で，南北6m，幅1～1.2m前後，深さ50cmほどの溝状遺構1が見つかり，中から平安時代前期から中期に属する遺物（瓦・須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器）が遺物コンテナに1箱ほど出土した。

またこの南北溝状遺構西側からは，複数の柱穴とみられるピットを検出した。

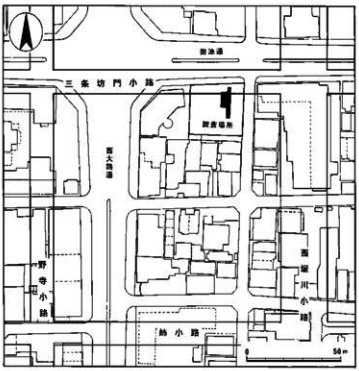


図19　平安京右京三条二坊十一町跡範囲と調査位置

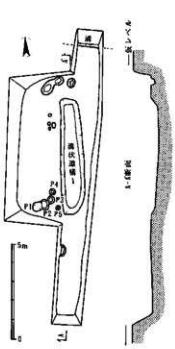


図20　検出遺構平・断面図

これらのピットは深さが極めて浅いものから，40cmほどのものまで幾種類もあり，中からは土師器の細片が出土している。

遺物（図21）図化した遺物は，耕作土（1），Pit 3（2－5），溝状遺構1（6－14）出土のものである。

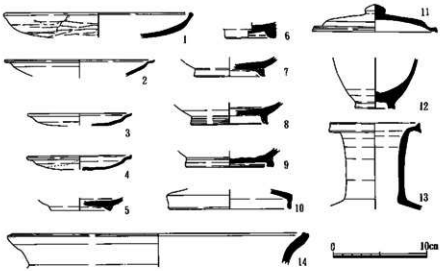


図21　出土土器実測図（1/4）

1は土師器皿で，全面ヘラ削り調整であり，9世紀の初め頃のものとみられる。

Pit 3出土の土器は，器高の低い「て」字状口縁をもつ土師皿と，偏平な三角高台をもつ土師質の緑釉陶器であり，10世紀後半頃の時期と考えられる。

溝状遺構1出土のものは，明瞭な有段高台をもつ緑釉陶器椀，須恵器杯蓋・杯B・瓶子底部・長頸壺，灰釉陶器蓋，削り出し高台をもつ白磁底部，土師器甕である。時期差は認められるが，

10世紀前半を中心としている。[1]

4．ま　と　め

調査地付近はこれまでの発掘調査結果から，西堀川小路の中央を南北に流れていた西堀川の氾濫とみられる砂礫層が，平安時代中期の遺構面の上層に存在することが知られ，中期以後のある時期に大きな氾濫または洪水があったことを物語っているが，当該地における試掘調査もそれを裏付ける結果となった。

今回検出した南北の溝状遺構は，中から出土した遺物が10世紀前半頃を中心としたものが多いことから，この頃に埋没したものとみられ，一町内の四行八門制（東一行北一門の西辺）に伴う南北溝とも考えられるが，今のところ南北方向には続かず，性格は不明である。さらに溝状遺構の西側で検出したいくつかの柱穴は，小規模なものがほとんどで，調査区内で礎物としてもまとまるものはない。

（梶川敏夫・馬瀬智光）

註

1）（財）京都市埋蔵文化財研究所の中村　敦・原山充志・永田宗秀氏らの御教示による。

写真5　トレンチ写真（北から）

写真6　拡張部分検出の溝状遺構（北から）

Ⅵ　右京五条二坊五町跡　No.35

1．調査経過

調査地は，西大路高辻を東へ入った中京区壬生檜町に所在する工場の跡地である。この地に店舗の建設が計画されたため，平成6年9月28・30日，10月5日の三日間にわたって試掘調査を実施した。調査は，工場の操業停止後に建物を残したままで，通路部分を対象として行った。また，事前にアスファルト敷きにカッターを入れL字形にトレンチを設定したが，土置き場の確保の問題から全面掘削はできず，6箇所にわけて掘削を行った。調査の結果，平安時代前期の溝・土壙などを発見した。

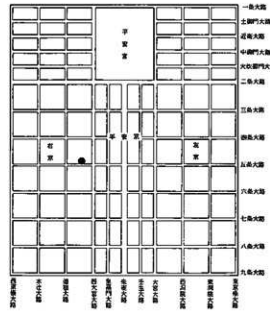


図22　平安京条坊図（調査位置）

2．遺　　構

6箇所のトレンチの基本層序は同じで，GL－0.5mで耕作土，GL－0.6mで平安時代の遺物包含層，GL－0.7～0.8mで地山の明黄褐色粘質土となる。各トレンチの概要は以下のとおりである。

1トレンチ　遺物包含層の下で土壙状遺構1基，ピット2基を発見する。

2トレンチ　遺物包含層の下で平安時代前期の南北方向の溝を発見する。溝の幅は約2.9m，深さは約0.2mを測り，溝内からは土師器・瓦片などが出土した。

3トレンチ　近世の池状遺構，時期不明の東西溝を発見する。

4トレンチ　GL－0.5m以下で，全面平安時代前期から中期にかけての遺物を多量に含む泥土の堆積層を検出した。この堆積層の性格としては，池・溝・大きな土壙などが想定される。

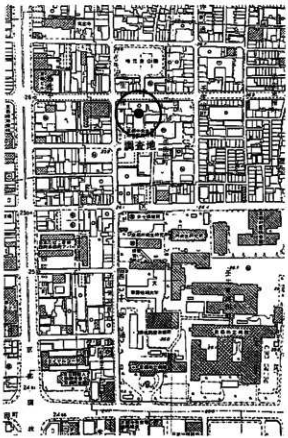


図23　調査地位置図（1/5,000）

5トレンチ　平安時代の遺物包含層をGL－0.5mで確認する。

6トレンチ　遺物包含層の下で土壌状遺構1基を発見する。

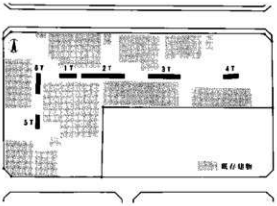


図24　トレンチ位置図（1/1,500）

3．遺　　物(図25)

出土遺物は，各トレンチの遺物包含層から土師器や須恵器の小片が出土した。また，2トレンチの南北溝からは，平安時代の土師器（高杯）・平瓦などが若干出土した。4トレンチの泥土層からは土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器などが出土した。図示した遺物は，この泥土層から出土した土器類である。1は緑釉陶器の椀で，底部は切り高台に仕上げ，全面に施釉する。胎土は精緻で，焼成は硬質である。7は緑釉陶器の平瓶とみられ，底部径は15cmを測る。外面に淡緑色の釉薬を施し，胎土は精緻で淡褐色を呈し，焼成は硬質である。2～4は灰釉陶器の椀で，2・4は内面のみに施釉し，3は内外面に施釉する。胎土は精緻で，焼成は硬質である。5は土師器の皿で，口径14.6cm・器高約1.9cmを測る。6は土師器の甕で，口径19cm，口縁部はナデ調整，体部はオサエ調整を施す。

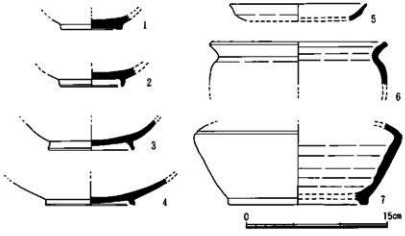


図25　土器実測図（1/4）

4．ま　と　め

今回の調査で，各トレンチで旧耕作土の下に平安時代の遺物包含層が認められたこと，さらにその下層で平安時代の遺物を多量に含む泥土の堆積や土壌状遺構・溝・ピットなどを確認したことから，当該地には平安時代の遺構が良好に残存していると考えられる。

（長谷川行孝）

Ⅶ　植物園北遺跡　No.63，No.64，No.65

1．はじめに

植物園北遺跡は，古墳時代を中心とした大集落遺跡で，京都盆地北辺部の賀茂川左岸に形成された扇状地に存在する。この遺跡の範囲内で行った3箇所の調査地は，それぞれ京都市北区上賀茂岩ケ垣内町93－1，93－2，94（No.63），左京区下鴨南茶ノ木町29番地（No.64），左京区下鴨南野々神町1－2（No.65）に所在している。これらの調査地は，隣接地で発掘調査が実施されており，当該地においても遺構の残存状態は良好であった。しかし，掘削面積が狭小であったり，既存建物でかなりの削平を受けており，遺跡範囲確認を目的にした試掘調査にとどめた。

2．No.63における調査

当該調査地の周辺では，北山通内で第4次調査[1]が地下鉄線工事に伴って行われており，その際当該地前面のNo.99トレンチにおいて，古墳時代後期から平安時代中期にわたる良好な遺物包含層を検出している。この包含層に焼土や生焼け未成品の須恵器等が含まれていることから付近に生産跡の存在が推定されている。また，北山通を挟んだ京都府立総合資料館内の第11次調査[2]では，古墳時代前期に埋没したと考えられる幅10.5m前後の東西方向の溝が検出されている。以上の結

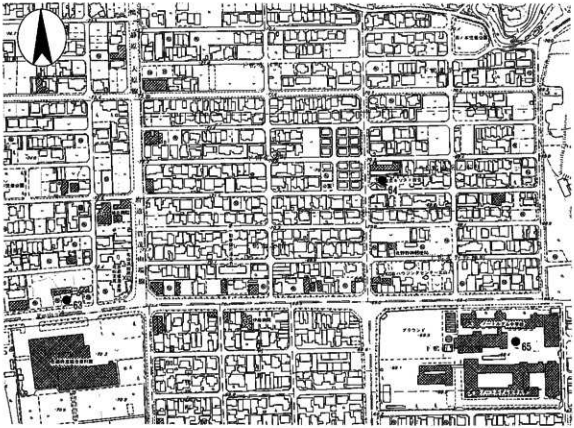


図26　調査位置図（1/5,000）

果から，当該地は古墳時代から平安時代に及ぶ遺跡の存在が推定されいた。ここに店舗建設が計画されたため，平成６年９月19日に試掘調査を実施した。

調査は、既存建物の基礎部分が解体されずに残っていたため，計画建物の西側部分にＬ字状のトレンチ（29.4m²）を設定した。検出された遺構は，古墳時代から奈良時代の遺物を含む溝１条，ピット13個であった。

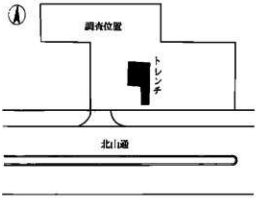


図27　トレンチ配置図（1/800）

２-１．遺構・遺物

調査地の基本層序は，造成土，耕作土，床土，灰黄褐色砂，遺物包含層の黒褐色砂泥と続き，ＧＬ－1.00mで，褐色砂泥の地山になる。

溝１　幅３m，深さ40cmの規模をもつ東西方向の溝で，長さ３mにわたって検出され，調査区外に延びる。溝の埋土は，礫を多く含む黒褐色泥土であり，遺物は須恵器坏身・坏蓋・土師器短頸壺等の小片が検出された。

ピット群　溝１の南側に１個，北側に12個検出した。これらの柱穴は，15cm～30cmの小規模なものと，50cm～１mの比較的大きなものの２種類が認められる。深さは，いずれも20cm余りである。検出した柱穴の内，４個から土師器や須恵器の小片が出土したが，時期を確定できるものはなかった。

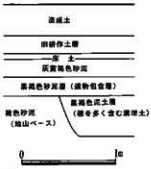


図28　トレンチ西側溝部分土層図（1/40）

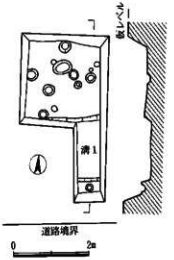


図29　検出遺構平・断面図（1/100）

２-２．ま と め

今回検出された溝は，幅３mの明瞭な東西溝であり，両方向に延長して行くと考えられるが，既往の調査でこの溝と連続するものは検出されていない。同一敷地内の北西部分で昭和54年に立会調査が行われ，平安時代の柱穴・土壙を検出しており，今回のピット群との関連性を推測できる。

また，第４次調査で想定された生産跡は確認することはできなかった。第11次調査で検出された東西方向の溝とは約50m離れており，埋没時期も異なっていることから，今回検出した溝との関連性は低いと考えられる。しかし，これらの溝は明瞭な東西溝であることから，その連続性をたどることで，植物園北遺跡の特定時期における集落内・外の境界問題や溝自体の目的を探ることが可能になると考えられる。

3．No.64における調査

この調査は，左京キリストの教会の建て替えに伴い，平成6年6月8日と，同年6月21日から29日までの計6日間にわたって行ったものである。平成5年に当該地の北西隣接地で行われた第13次発掘調査[41]において，弥生時代後期から古墳時代前期にかけて造られた竪穴式住居跡5棟等が検出されており，これらに関連する遺構の存在が想定された。調査の結果，古墳時代前期の掘立柱建物跡1棟，竪穴住居跡1棟，溝跡1条，土壙2基等が検出された。調査面積は約70㎡である。

3-1．遺　構

調査地の基本層序は，地表下0.15mまで造成土，以下，旧耕作土層，黒褐色砂泥層，灰黄褐色砂泥層，褐色泥砂層と続き，地山である黄褐色粘質土層は地表下0.35mで検出された。遺構は，地山を掘り込んで造られているが，検出された遺構の状況から過去の耕作等でかなりの削平を受けているものとみられる。

掘立柱建物1（写真7・図32）　2間×2間の建物で，規模は柱穴心々間で東西3.2m×南北3.0mを測る。各柱穴の心々間隔は南北列は1.5m，東西列は1.6mのほぼ等距離で掘り込まれている。柱穴は円形の掘り込みで，径30cm，深さは検出面から30cm～40cmである。柱掘形の埋土は褐色砂泥を含む黒褐色泥砂，柱あたりの埋土は黒褐色泥砂である。遺物は小片で実測できるものはないが，P2，P4，P5，P6，P8から出土している。

竪穴住居2（写真8・図33）　東西3.2m以上×南北4.3mを測る隅丸方形の住居跡である。西端中央部分，北東端部分は攪乱を受け，住居東側は調査区外に延びる。床面までの深さは20cmである。周壁溝の深さは20cm，幅は25～30cmを測る。P1の南北両側に幅30～40cm，長さ80～90cmの南北溝があり，間仕切り溝として用いられた可能性がある。焼土は2箇所で認められる。P1の掘形は径50～60cm，柱あたりの径20cm，深さ30cmの柱穴である。このP1を西側の，そしてP1に対して北東方向調査区外に想定される柱穴を東側の主柱とする2本主柱の竪穴住居の可能性が高い。P2は焼土を含む径40cm，深さ15cmのすりばち状を呈している。明褐色粘土の貼床をもち，埋土は黒色泥砂でありほぼ同時期に埋没したと考えられる。遺物は埋土内からも多数出土したが，床面密着の遺物は甕2点，高杯1点である。甕2点はそれぞれ北側南北溝上と南側南北溝上に1点づつ置かれていた。高杯は北西部分にある焼土塊上にあった。溝3及び土壙5によって切られ

図30　調査区東側土層図（1/40）

写真7　調査区全景（北から）

写真8　竪穴住居2全景（北から）

写真9　溝3遺物出土状況（北西から）

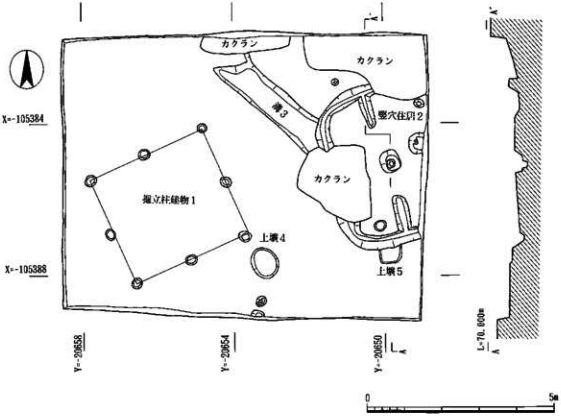


図31　検出遺構平・断面図（1/100）

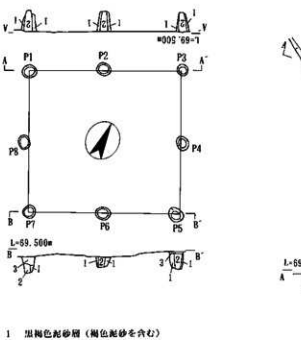


図32　掘立柱建物1平・断面図（1/80）

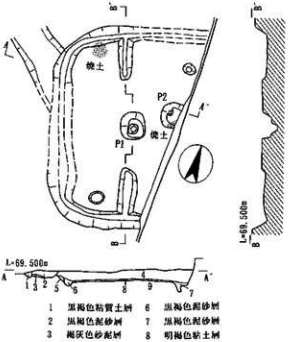


図33　竪穴住居2平・断面図（1/80）

ている。

溝3（写真9・図31）　北西方向から南北方向の溝で，長さ3.5m以上，幅80cmを測る。北端は攪乱及び過去の耕作等による削平を受け，南端は攪乱を受けている。深さは1～15cmであり，埋土は黒褐色泥砂である。遺物は4箇所に集中していた。

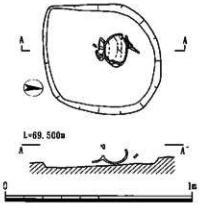


図34　土壙5平・断面図（1/20）

土壙4（図31）　掘立柱建物1の柱穴P5の南側にある長径85cm，短径70cm，深さ10cmの楕円形の土壙である。高杯の口縁部等，土師器小片を少量含むすりばち状のもので，埋土は褐色泥砂を含む黒褐色泥砂である。

土壙5（図34）　竪穴住居2の埋没後に掘られた浅い平底状の土壙であり，一辺60cm，深さ4cm程度の規模で，土壙中央に壺1個体と高杯口縁部を検出した。土壙の本来の深さは検出した以上にあったと考えられる。

3-2．遺　　物(図35)

遺物総量は遺物用コンテナ3箱分で，遺物のほとんどは竪穴住居2と溝3に集中している。

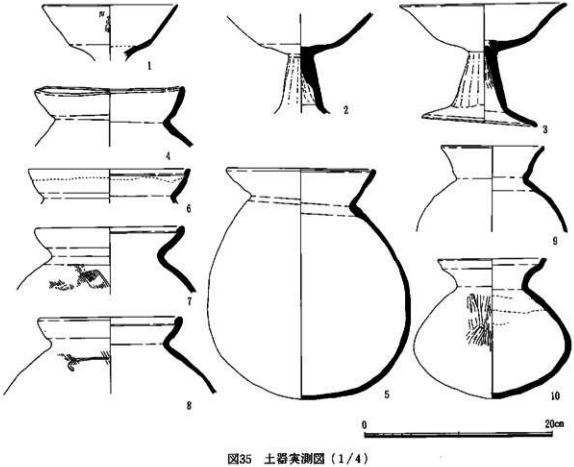


図35　土器実測図（1/4）

高杯（1～3）　1・2の杯部は直線的に外上方に伸び，口縁端部は先細る。1・2とも弱い稜線が杯部傾斜変換点に存在する。1の外面はハケ調整されている。2・3は脚部柱状部外面を縦方向にヘラ状工具でナデたとみられる弱い稜をもつ面[5]があり，内面はしぼり目が残っている。3の杯部は厚く一定した器壁が外反して立上がる。杯部傾斜変換点の稜線はなく，脚部は柱状部と裾部の変換点の屈曲部は明瞭で，裾部端は面取りが施されている。1は土壙5，2は竪穴住居2の床面，3は溝3からの出土である。

甕（4～8）　大きく4・5，6～8の2グループに分けられる。4・5は薄い器壁の口縁部が外上方に立上がり，端部で内側に若干肥厚する。外面は口縁部から体部への屈曲部を横方向に強くナデた痕跡が残っている。5は下膨れの体部に丸底をもつ。体部内面の屈曲部付近からヘラ削りが始まるが，摩滅著しく単位や方向は不明である。6～8の口縁部は緩やかに内彎し，端部を内側に丸め込んで大きく肥厚させている。外面は口縁部と体部の間の屈曲部を横方向にナデている。体部外面は斜め方向のハケ調整が施されている。内面の調整は摩滅著しく単位・方向は不明だが，ヘラ削りの開始は4・5よりも下がった位置からである[6]。8の体部外面には調整後ヘラ状の工具によって横向きに「し」状の沈線が施されている。4・5は竪穴住居2の床面，6～8は溝3からの出土である。

壺（9・10）　9の口頸部は，緩やかにS字状にカーブしており，肩部はなだらかである。10の口縁部は明瞭な受け口状を呈し，体部は偏平で膨らみが激しく底部は丸い。内面は接合痕を3箇所で認めた。体部外面の調整は縦方向のヘラ磨きである。9は溝3，10は土壙5から出土した。

3-3．まとめ

古式土師器の分類及び編年については，寺沢薫氏の奈良県矢部遺跡報告書[7]のものに準ずる。掘立柱建物1から出土したもので時期比定の可能なものは，土師器口縁部1点であり，布留式甕の初期様式に併行すると考えられる。竪穴住居2の床面から出土した甕及び高杯は，その特徴から布留式でも初期のものに，溝3出土のものは，壺9は布留1式併行の短頸直口壺に類例が認められる他は，高杯は稜線がなく，甕もケズリ調整の開始や口縁の肥厚具合から，布留3式ないし4式に併行すると考えられる。土壙5出土の壺は，類例はないが受口口縁の明瞭さや，体部のプロポーションから考えると，庄内から布留への移行期のものであろうか。一方，高杯は竪穴住居2出土の2と同一型式であり，高杯B5形式である。これらから，竪穴住居2と土壙5の時期差はあまり考えられない。さらに，これらが埋没した後に，溝3が開削され利用されたと考えられる。掘立柱建物1は正確な時期比定は困難だが，建物の方角から竪穴住居2や第13次調査の竪穴住居3・4とほぼ同じ方向を向くことから，この遺跡の庄内から布留期にかけての傾向に従っている。ただし，この掘立柱建物は床面積が9.60㎡と小さく，住居として利用されていたかは疑問である。また，この調査で検出された竪穴住居内の間仕切り溝と考えられる溝の存在は，第13次調査で検出された竪穴住居内のベッド状遺構と合わせ，当該遺跡の住居内における生活様式のバリエーションが豊富であることを示すものであろう。

4．№65における調査

調査地は，ノートルダム小学校構内運動場の一画を占め，南側隣接地では平成２年に発掘調査（第８次調査）[8]が行われ，古墳時代の竪穴住居等を中心とする集落跡が検出されている。ここに，校舎の建て替えに伴う計画がなされたため，平成６年５月30日に試掘調査を行った。

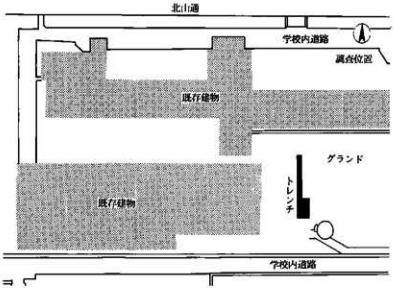


図36　トレンチ配置図（1/1,000）

調査は西側にある既存建物（教室棟）を避けて，南北方向のトレンチ（図36）を１箇所設定して行った。このトレンチの規模は1.2m×16mで，調査の進展に伴いトレンチ南側部分を東側に拡張した（幅約３m）。その結果，飛鳥時代のピット１基，性格不明の土壙１基等を検出した。なお，トレンチ北側部分は近代の攪乱などで地山面は著しい削平を受けていた。

4－1．遺　　構（図37）

調査地の基本層序は，地表下0.4mまでが運動場の整地土，以下，旧耕作土層，地山である礫混じり黒褐色砂泥・礫混じりのにぶい黄褐色砂泥が堆積している。各遺構は，礫混じりの黒褐色砂泥層を掘り込んで造られている。

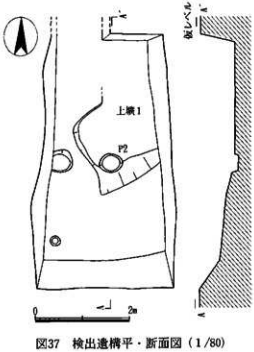


図37　検出遺構平・断面図（1/80）

図38　トレンチ中央西側土層図（1/40）

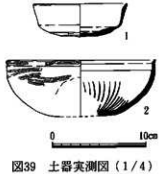


図39　土器実測図（1/4）

土壙1　この遺構は，北と東に延びており，正確な形態は不明である。検出規模は東西1.8m×南北3.2mであり，遺構底部の起伏はほとんどない。遺構南側でＰ２に切られている。トレンチの拡張区北端において，２個体以上の土師器が破片となって集中して検出された。出土した土師器のうち，器種のわかるものは長甕１個体，鉢１個体である。

Ｐ２　土壙１の南西部分にあり，径50cmの楕円形を呈し，残存していた深さは約10cmである。遺構の中央部分に須恵器の杯身１個体がほぼ完形で，正置に置かれていた。

4－2．遺　　物（図39）

須恵器杯身（１）　口径10cm，器高3.3cmあり，底部と口縁部の境界は明瞭である。この境界の1.0cm底部側に入ったところから，時計回りのヘラ削りが施されている。口縁部はまっすぐ上方に立上がる。色調は淡紫灰色から淡青灰色を呈している。胎土は粗砂礫を多く含んでいる。

土師器鉢（２）　口径16cm，器高6.0cmで，緩やかに内彎した体部から短くＳ字に伸びる口縁部をもつ。外面は口縁端部から横方向の粗いヘラミガキを施している。内面は体部から底部にかけて，放射状の暗文が施されている。

4－3．ま と め

南側隣接地の第８次調査では，古墳時代前・後期の竪穴住居跡等が，周辺の調査でも弥生時代・古墳時代を中心とした遺構が検出されている。しかし，今回の調査検出した遺構は，出土遺物から判断すると，飛鳥Ⅱ期に併行すると考えられる。当該地で飛鳥時代の遺構が検出されたことは，この遺跡で従来不明瞭であった時期にも人々の生活が営まれていたことを示す点で，今後の当該遺跡の調査に新しい視点を提供することになるものと考える。　（馬瀬智光）

註

1）小森俊寛・原山充志・長戸満男「26　植物園北遺跡」『京都市埋蔵文化財調査概要』昭和61年度（財）京都市埋蔵文化財研究所　1989年　71－75頁

2）竹原一彦「４．植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第54冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター　1993年　153－160頁

3）辻裕司「植物園北遺跡立会調査(No.369)」『京都市内遊跡試掘・立会調査報告』昭和54年度　1980年　88頁

4）岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「３．植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第58冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター　1994年　43－74頁。

5）伊賀高弘「６．北尻遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第58冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター　1994年　101－122頁

6）高橋潔氏をはじめ，右記の方々から多くのご教示を受けた。丸川義広・内田好昭・山本雅和の各氏

7）寺沢薫「古式土師器の形式分類」『矢部遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第49冊　奈良県立橿原考古学研究所　1986年　64－84頁

8）長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告－植物園北遺跡－』　ノートルダム女子大学　1991年

Ⅷ　長岡京左京九条三坊跡　No.19

1．調査経過

調査地は，京阪国道納所交差点から千本通を北へ入った伏見区納所町223に所在する天理教淀分教会の敷地である。当該地は長岡京跡の南東隅に位置し，また旧淀城跡推定地に隣接する。天理教淀分教会が教会の建て替えを計画したため，平成6年2月23日に試掘調査を実施した。その結果，東西方向の石垣を約10mにわたって発見したため，その範囲を確認するため25日及び3月7日に再調査を行った。

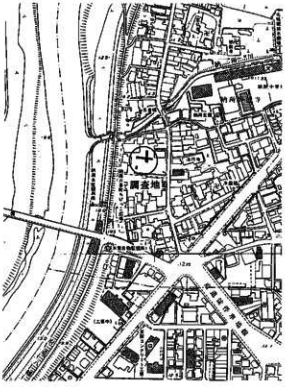


図40　調査位置図（1/5,000）

2．遺　　構

発見した遺構には，東西方向の石垣がある。石垣は北側を面として構築され，その検出された長さは残存状況にばらつきがあるものの約18.5mを測り，さらに東西に続いている。

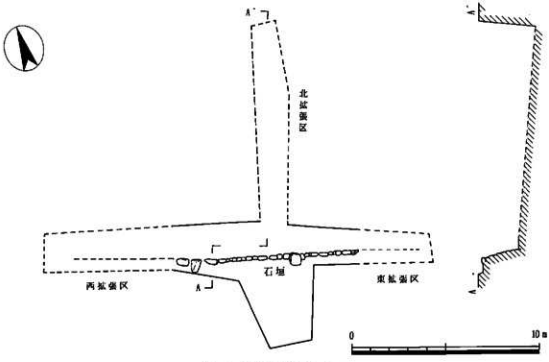


図41　遺構実測図（1/200）

石垣は，残りの良い箇所では地表から約0.2mの深さで検出でき，その積み上げた高さは約2.1mある。石質はチャート系が主体で，花崗岩も混入している。石垣列の西端付近では，石垣の崩壊が激しく地表面から1.9m以下に石垣の底部が残る程度であった。また，石垣列の東端付近もその上部が消失し，地表面から1.45m以下に石垣が残存していた。石垣から北側は，地表面から1.8mまでは一度に埋めた黄褐色砂泥でその下層は厚さ0.5m程度の青灰色泥土の堆積で堀あるいは池状の堆積を示す。石垣列を境に南側は，ベースが砂層で石垣はこの砂層を掘り込んで築かれている。砂層上面には黒褐色土（19世紀代の遺物を含む）が堆積しているが，建物跡などの遺構は発見できなかった。

写真10　石垣全景（西から）

3．ま　と　め

今回の調査で発見した東西方向の石垣は，残存状態が一様ではないものの敷地内をほぼ東西に横断していることが判明した。石垣から北側は泥土の堆積が認められることから，水の浸かっていた状態（堀など）が想定できる。石垣の築造時期については，裏込めなどから遺物が出土していないので確証は得られないが，泥土からの出土遺物が江戸時代後期，石垣から南の砂層上面で出土した遺物が江戸時代末期であることから，石垣自体も江戸時代に造られたと推定できる。なお，江戸時代の作といわれる「山州淀御城府内之図」によれば当該地は木村藤五郎と書かれた屋敷地の北側に隣接する無記名の敷地に該当する。絵図には石垣などは記されていないが，発見した石垣はこの敷地の北側を画するものと思われる。

（長谷川行孝）

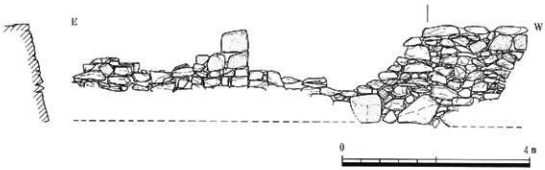


図42　石垣立面図（1/80）

表2　試掘調査一覧表

平成５年度　１～３月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
宮内庁	上・七本松通下長者通下る三番町261	2/28	発見できず。	1
大蔵省	上・千本通上長者町上る百万遍町88，90	3/30	ＧＬ-0.91ｍで近世の土壙１基を検出する。	2
中務省	上・下立売通千本東入下る中務町486-22	1/10	ＧＬ-0.6ｍで南北方向の溝を発見する。発掘調査を指導する。	3
内蔵寮	上・千本通下長者上る革堂前ノ町111	3/2	ＧＬ-0.5ｍで平安時代の瓦溜を発見する。	4
武部殿	上・下長者町通七本松西入鳥殿町252	3/16	ＧＬ-0.75ｍで平安時代の土壙・柱穴を発見する。発掘調査を指導する。	5

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
三条四坊九町	中・富小路通二条下る俵屋町192他	2/9	ＧＬ-1.0ｍで室町時代の遺物包含層。	6
四条一坊三町	中・壬生御所ノ内町16他	2/2	ＧＬ-0.6ｍで平安時代の遺物包含層，ＧＬ-0.8ｍで平安時代の池状堆積を発見する。	7
六条二坊二町	下・大宮通松原下る東園西門前町430-1他	3/22	ＧＬ-0.75ｍで中世の土壙2基を発見する。	8
六条四坊十町	下・五条通西原町西入本覚寺前町805他	1/12	ＧＬ-2.18ｍで平安時代から鎌倉時代にかけての池状堆積。発掘調査を指導する。	9
九条四坊八町	南・東九条西岩本町10-2他	3/23	ＧＬ-0.72ｍで時期不明の整地層。ＧＬ-0.87ｍ以下，砂礫層。	10

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
五条四坊十二町	右・西院月双町３	1/17	ＧＬ-1.3ｍで竪穴住居状遺構を検出する。発掘調査を指導する。	11
五条四坊十六町	右・西院東貝川町32，33	1/26	ＧＬ-1.6ｍで平安時代の遺物包含層。	12
八条一坊五町	下・梅小路頃町10	2/23	ＧＬ-1.36ｍで推定皇嘉門大路西側溝を検出する。	13
八条二坊七町	下・西七条石井町46-2	2/14	ＧＬ-1.15ｍ以下，湿地状堆積。	14
八条二坊十町	下・七条御所ノ内町68	3/14	ＧＬ-0.54ｍ以下，湿地状堆積。	15

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
史跡　醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町　理性院	2/17	竹の根で調査できず。	16

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町25-4他	1/19	ＧＬ-0.95ｍ以下，河川堆積層。	17

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
上久世遺跡	南・久世中久世町２丁目20	2/7	ＧＬ-1.15ｍで中～近世の流路堆積を発見する。	18

長岡地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	伏・納所町223	2/22-25.3/7	地表下，0.2ｍで江戸時代の東西方向の石垣を発見する。	19

平成６年度４～12月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
南所・聚楽第跡	上・智恵光院通出水下る分銅町565	7/15	ＧＬ-0.6ｍ以下，堀状遺構。	20
茶園・聚楽第跡	上・中立売通松屋町東入新元町216他	10/12	ＧＬ-1.1ｍ以下，聚楽第の堀状遺構。	21
主殿管・聚楽第跡	上・中立売通日暮東入新白水丸町462-56	8/3	発見できず。	22
大　蔵　院	上・千本通中立売下る仲御霊町64	7/4	発見できず。	23
中　和　院	上・千本通下立売下る小山町908-10	12/14	ＧＬ-0.55ｍで近世の溝状遺構を発見する。	24
内　裏	上・下立売通浄福寺東入下丸屋町494他	7/13	ＧＬ-0.6ｍ以下，近世遺物包含層。	25
内　裏	上・下立売通千本東入田中町459	4/25	遺構・遺物ともに発見できず。	26
朝　堂　院	上・千本通二条下る染殿町858	7/25	ＧＬ-1ｍで幅2.1ｍ深さ0.2ｍの平安時代の東西溝を検出する	27
宮　内　省	上・竹屋町通下本東入生祝町1255	10/5	ＧＬ-0.75ｍ以下，平安時代の瓦を含む中世の整地層。	28
豊　楽　院	中・聚楽第西町79-3	5/9-10	敷地の東端付近ではＧＬ-0.3ｍで遺構面を検出。それ以西では近現代の撹乱層のみ。	29
豊　楽　院	中・聚楽第中町55	5/16	近代の撹乱のみ。	30

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
土御門大路	上・油小路通上長者町下る亀屋町125他	9/7	ＧＬ-1.2ｍで室町時代の土壙1基を発見する。	31
北辺三坊三町	上・中立売通堀町西入３丁目464	4/27	ＧＬ-2.1ｍまで近世・中世の整地層の堆積。	32
二条二坊二町	上・竹屋町猪熊西入基屋町536	10/17	ＧＬ-0.5ｍで近世の東西溝・土壙・室町時代の柱穴を発見する。発掘調査を指導する。	33
二条四坊二町	中・間之町通竹屋町上る大津町665他	11/21	ＧＬ-1.1ｍで鎌倉時代の土壙？を発見する。	34
三条一坊三町	中・西ノ京職司町22-1他	11/9	ＧＬ-0.88ｍで推定朱雀大路東側溝の底部を発見する。	35
三条四坊七町	中・御池通柳馬場西入御所八幡町221他	6/17	ＧＬ-2.05ｍで室町時代の土壙状遺構1基。	36
朱雀大路	中・壬生御所ノ内町33-3	7/8	ＧＬ-0.4ｍで砂礫層。	37
四条二坊十五町	中・崎原錦通西洞院西入元本能寺南町361	8/17	１Ｔ：ＧＬ-1.25ｍで中世の土壙３基。２Ｔ：ＧＬ-で0.86ｍで小穴の南北溝を発見する。	38
四条三坊八町	中・三条通室町西入衣棚町53	5/23.6/15	ＧＬ-0.9ｍで室町時代の遺物包含層，ＧＬ-1.0ｍで平安時代の土壙２基・室町時代の土壙２基。	39
六条一坊十四町	下・下松屋町通松原下る２丁目下長福寺町296-1他	12/9	ＧＬ-0.52ｍで，近世の土壙・井戸を検出する。	40
六条二坊十一町	下・油小路通五条下る中金仏町215他	5/18	ＧＬ-1.26ｍで鎌倉時代の土壙１基を発見する。	41
七条二坊十五町	下・東中筋通花屋町下る柳町335-1	11/14	ＧＬ-1.38ｍで鎌倉・室町時代の土壙を発見する。	42
七条三坊十町	下・烏丸通七条上る常葉町754　東本願寺	12/21-22	１Ｔ：ＧＬ-1.95ｍ以下，室町時代の遺物包含層。２Ｔ：ＧＬ-2.35ｍで平安時代の遺物包含層。３Ｔ：ＧＬ-1.87ｍで室町時代の溝跡？跡を検出する。発掘調査を指導する。	43
八条三坊一町	下・本津屋鎌通西洞院東入東塩小路町599他	12/26	ＧＬ-1.71ｍで地山の砂礫層。地山直上まで近世の堆積層。	44
九条一坊十町	南・壬生通八条下る東寺町　洛南高校	7/27	ＧＬ-0.97ｍで近世の南北溝を検出する。	45

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条三坊十一町	中・西ノ京小路池町3-2他	8/24	ＧＬ-1.2ｍで時期不明の土壙２基を発見する。	46
三条二坊十一町	中・西ノ京下合町29-1	4/14	ＧＬ-0.9ｍで平安時代の溝状遺構・柱穴等を発見する。	47
四条二坊十町	右・西院東今日町35-1他	9/12	ＧＬ-1.4ｍ以下，平安時代の池状遺構。	48
四条三坊十三町	右・西院小米町8-1他	12/7	敷地の西端，ＧＬ-1.25ｍで一辺1.2ｍの柱穴を１基検出する。	49
五条二坊五町	中・壬生檜町６	9/28・30.10/4	ＧＬ-0.6ｍで平安時代の遺物包含層，ＧＬ-0.8ｍで平安時代の南北溝・土壙などを発見。設計変更を指導する。	50
五条四坊四町	右・西院清水町12-1	12/19	ＧＬ-1.8ｍ以下，湿地状堆積。	51
六条二坊十二町	右・西院西中水町21	6/3	ＧＬ-1.03ｍで平安時代の土壙・柱穴１基を発見。	52
六条四坊十五町	右・西京極高野町39	8/5	遺構・遺物を発見できず。	53
七条三坊十六町	右・西京極豆田町13，14	8/29	ＧＬ-0.85ｍで平安時代？の東西溝を発見する。	54
九条一坊十二町	南・唐橋花園町4-13	10/24	ＧＬ-0.15ｍ以下，砂礫層。	55

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
九条二坊二町	南・唐橋平垣町	6/1	GL-1.2mで西鞍負小路及び西溝溝を発見する。発掘調査を指導する。	56
九条二坊五町	南・唐橋大宮尻町6	7/11	GL-1.6mで西堀川小路路面を検出する。	57
九条二坊九町	下・七条御所ノ内南町98-1他	7/6	GL-1.2mで西堀川・路面・側溝を検出する。発掘調査を指導する。	58

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
上ノ段町遺跡	右・太秦多藪町2-1他	4/13	有力な遺構面、遺物は発見できず。	59
和泉式部町遺跡	右・太秦森ケ東町8-5他	6/29	有力な遺構面、遺物は検出できず。	60
井戸ケ尻遺跡	右・太秦井戸ヶ尻町13-1他	12/2	GL-0.25mで時期不明の溝3条・柱穴1基を検出。	61

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
史跡賀茂別雷神社境内	北・上賀茂本山	12/12	GL-1.0mで時期不明の土器溜めを発見する。	62
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内畑町93-1他	9/19	GL-0.97mで古墳時代の柱穴数基・東西溝状遺構を発見する。設計変更を指導する。	63
植物園北遺跡	左・下鴨南野々神町1-2	5/30	GL-0.58mで土壙状遺構1基・PIT1基を発見する。	64
植物園北遺跡	左・下鴨南茶ノ木町29	6/8-21～28	GL-0.2mで竪穴住居跡1棟・掘立柱建物1棟を発見する。	65

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
一乗寺向畑町遺跡	左・修学院大林町12-2	9/26	GL-0.75m以下、砂の氾濫堆積。	66
小倉町別当町遺跡	左・北白川下別当町23	6/6	GL-0.52mで平安時代の土壙1基を発見する。	67
北白川廃寺	左・北白川東堀ノ内町50-1	11/4	GL-0.48m以下で塔跡の一部を発見する。(設計変更)	68
白川街区跡	左・聖護院円頓美町17	7/18	GL-0.6m以下で建物の掘込み地業を検出する。発掘調査を指導する。	69
白川街区跡	左・岡崎天王町54-1	10/19	GL-0.5mで中世の石組土壙、時期不明の土壙・Pitを検出する。	70
白河北殿	左・丸太町通川端東入東丸太町24-2	5/25	GL-0.7m以下、砂泥・砂礫の堆積。	71
法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町55-2	4/4	GL-1.8m以下、白川の氾濫堆積層。	72
尊勝寺跡	左・岡崎最勝寺町6-3他	6/22	GL-0.3mで平安時代後期の瓦堆積層。	73

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
六波羅政庁跡	東・渋谷通本町東入鐘鋳町415-4	4/11	遺構面を検出できず。	74
六波羅政庁跡	東・本町1丁目42他	11/24	GL-1.4m以下、近世の氾濫堆積。	75
六波羅政庁跡	東・本町2丁目69	12/5	GL-0.88m以下、鴨川の氾濫堆積。	76
法住寺殿跡	東・耳塚通正面下ル徳師屋町571他	10/14	GL-0.4mで平安時代末期の南北方向の溝を発見する。設計変更を指導する。	77
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町8-1	8/10	GL-0.47mで時期不明の土壙1基・柱穴2基を発見する。	78
大宅廃寺	山・大宅鳥井脇町7-1	10/31	GL-1.3mで古墳時代の柱穴？1基、時期不明の土壙2基・溝1条	79

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町　理性院	4/26	遺構は発見できず。	80
伏見城跡	伏・桃山鍋島町13-11他	4/7	GL-1.4～2mで時期不明の腐地状堆積。	81

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・桃山筒井伊賀東町46	4/22	GL-0.9～1.23mで地山面を検出する。遺構・遺物は発見できず。	82
伏見城跡	伏・桃山福島太夫西町6	7/22	GL-0.4mで時期不明の柱穴状遺構2基を検出する。	83
伏見城跡	伏・桃山水野左近西町37	8/8	発見できず。	84
伏見城跡	伏・南部町43-1他	9/21	GL-1.0mで江戸時代の柱穴・土壙などを発見する。	85
伏見城跡	伏・紙子屋町556他	10/28	GL-1.27mで桃山期？の溝状遺構。	86
伏見城跡	伏・周防町330他	11/30	GL-1.8m以下，近世の混土堆積。	87
伏見城跡	伏・桃山町遠山24-1他	9/5	GL-0.5mで溝状遺構を検出する。	88
伏見城跡	伏・桃山町遠山2-1他	9/20	GL-1.4mで花崗岩の東西方向の石列を発見する。発掘調査を指導する。	89

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・竹田淨菩提院町51	5/13	GL-1.7m以下，腐植土の堆積。	90
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町58-1	11/7	GL-1.28m以下，弥生～古墳時代にかけての遺物包含層	91
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町69	12/16	GL-0.45mで盛土状遺構（遺物地業跡），GL-1.4mで平安時代後期の地跡を発見する。設計変更を指導する。	92

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
上久世遺跡	南・久世上久世町155，155-3	4/18	GL-1.05mで時期不明の溝状遺構を発見する。	93

長岡地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	伏・羽束師古川町192	6/13	遺構・遺物ともに発見できず。	94
長岡京跡	伏・羽束師古川町236	9/9	GL-1.25m以下，湿地状堆積。	95
長岡京跡	伏・羽束師菱川町	5/11	遺構・遺物ともに発見できず。	96
長岡京跡	伏・羽束師菱川町212-3他	8/1	GL-0.3mで土壙1基・柱穴2基を発見する。	97
長岡京跡	伏・久我森ノ宮町15-13	11/16	GL-1.14mで中世の南北溝1条を発見する。	98
長岡京跡	伏・久我西出町12-19他	8/22	GL-1.5mで落ち込み状遺構を発見する。	99
長岡京跡	伏・久我西出町4-18	4/20	GL-0.75～0.85mで南北溝1条，東西溝3条を発見する。	100

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさかいほう
書名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成６年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	梶川敏夫・長谷川行孝・馬瀬智光
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入光伊佐町265-1　TEL075-441-5261
発行機関	京都市文化観光局
所在地	〒606　京都市左京区岡崎最勝寺町13　京都会館内　TEL075-752-0205
発行年月日	西暦1995年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
平安京跡 内蔵寮	京都府京都市上京区 下本満寺長骨上る草堂前之町	26100		35度 1分 11秒	135度 44分 42秒	19940302	13	店舗建設
平安京跡 左京四条一坊	京都府京都市中京区 壬生御所ノ内町	26100		35度 0分 6秒	135度 44分 47秒	19931208・19940202	62	マンション建設
平安京跡 左京四条三坊	京都府京都市中京区 三条通室町西入衣棚町	26100		35度 0分 18秒	135度 45分 37秒	19940523・0615	80	マンション建設
平安京跡 右京三条二坊	京都府京都市中京区 西ノ京下合町	26100		35度 0分 26秒	135度 44分 7秒	19940414	44	マンション建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 内蔵寮	宮殿跡	平安時代	瓦溜	軒丸瓦・丸瓦・平瓦	
平安京跡 左京四条一坊	都城跡	平安時代	池状遺構	土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦	
平安京跡 左京四条三坊	都城跡	平安時代～室町時代	土塀・溝	土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦	
平安京跡 右京三条二坊	都城跡	平安時代	溝状遺跡・柱穴	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦	

ふ り が な	きょうとしないいせきしくつちょうさがいほう
書　　名	京都市内遺跡試掘調査概報　平成6年度
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	梶川敏夫・長谷川行孝・馬淵智光
編 集 機 関	京都市埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒602　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL075-441-5261
発 行 機 関	京都市文化観光局
所　在　地	〒606　京都市左京区岡崎最勝寺町13　京都会館内　TEL075-752-0205
発 行 年 月 日	西暦1995年3月31日

所収遺跡名	所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
平安京跡 右京五条二坊	京都府京都市中京区 壬生梅ノ町	26100		34度 59分 47秒	135度 44分 11秒	19940928・ 0930・1005	83	店舗建設
植物園北遺跡	京都府京都市左京区 下鴨茶ノ木町ほか	26100		35度 2分 59秒	135度 46分 24秒	19940608・ 0621～0629	106	教会建設
長岡京跡 左京九条三坊	京都府京都市伏見区 納所町	26100		34度 54分 48秒	135度 43分 18秒	19940223・ 0225・0307	73	教会建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡 右京五条二坊	都城跡	平安時代	溝・土壙	土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦	
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代前期 飛鳥時代	竪穴住居・掘立柱建物	土師器・須恵器	布留併行期の竪穴住居を発見する。
長岡京跡 左京九条三坊	都城跡	江戸時代	石垣	近世陶磁器・瓦	

図　　版

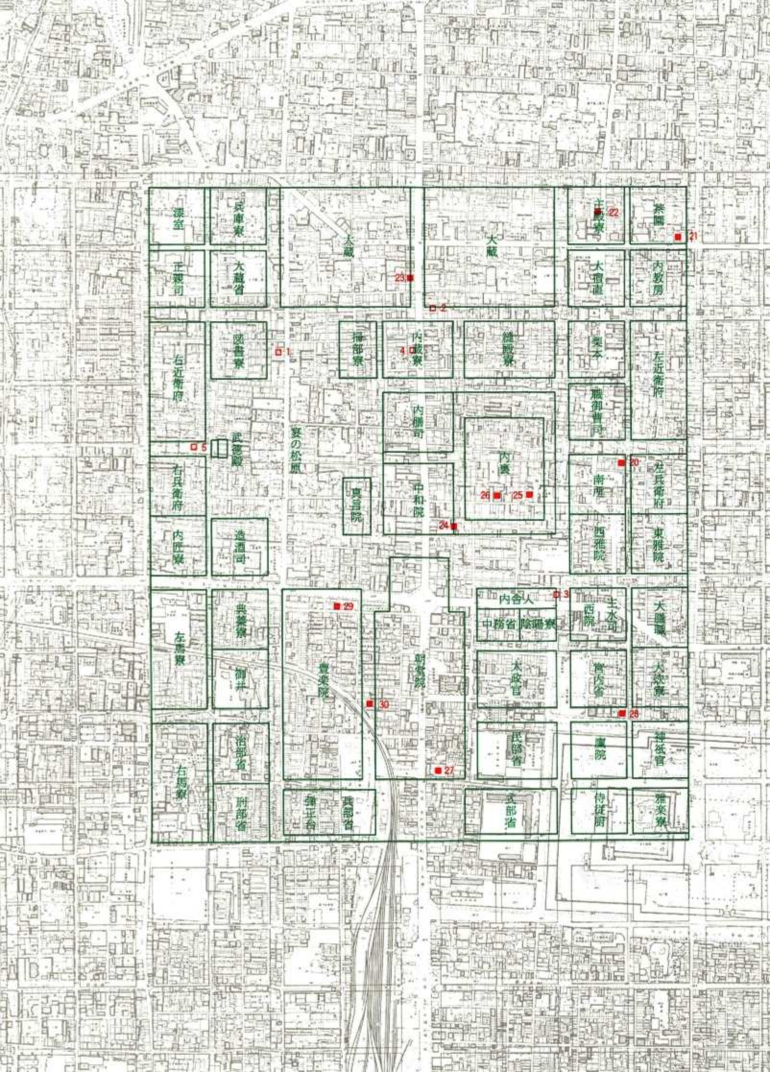
凡　例

平成６年試掘調査地点

□　１月～３月　　■　４月～12月

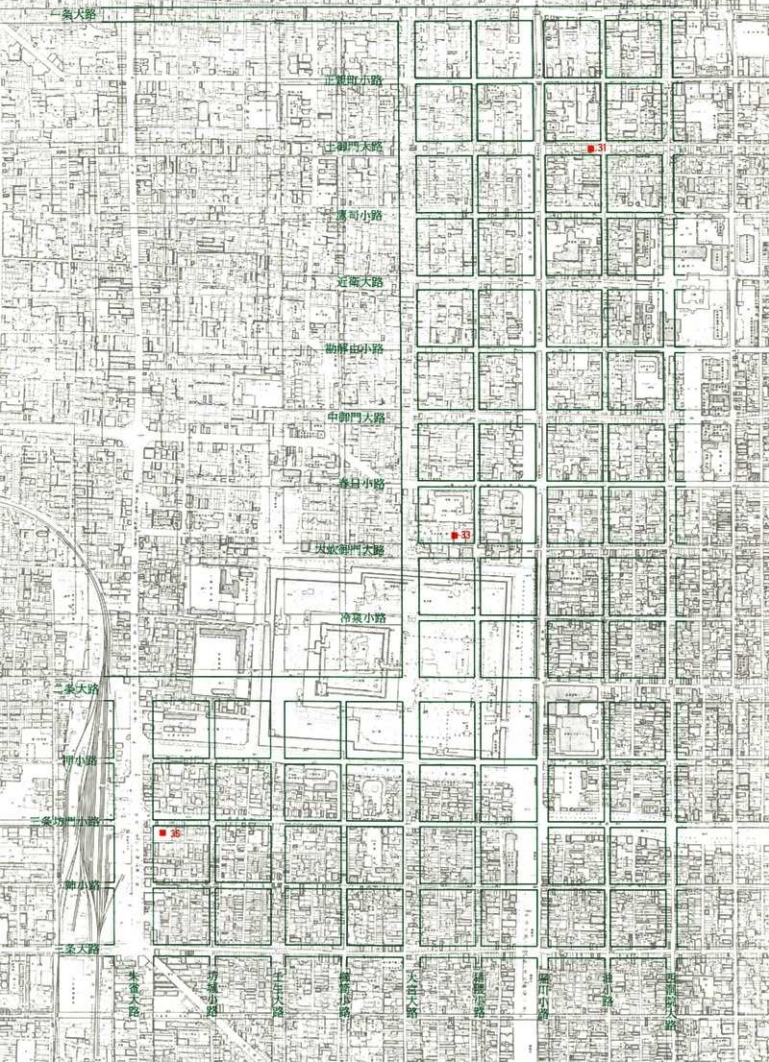
－－－－－　遺跡範囲

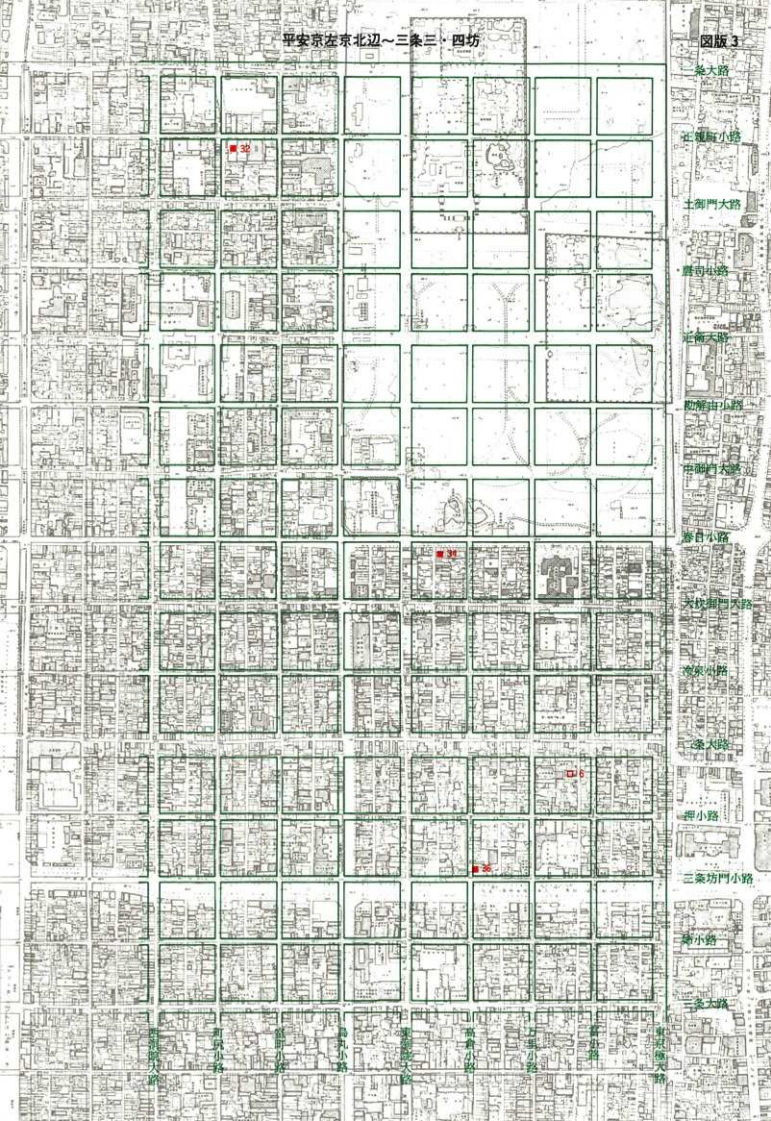
平 安 京


漆室
兵庫寮
大蔵
大蔵
主殿寮
茶園
正親司
大蔵省
大宿直
内教房
図書寮
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
梨本
右近衛府
左近衛府
内膳司
職御曹司
武徳殿
宴の松原
内裏
真言院
中和院
右兵衛府
左兵衛府
内匠寮
造酒司
西雅院
東雅院
内舎人
中務省
陰陽寮
西院
主水司
大膳職
典薬寮
豊楽院
朝堂院
左馬寮
御井
太政官
宮内省
大炊寮
治部省
民部省
廩院
神祇官
右馬寮
刑部省
弾正台
兵部省
式部省
侍従厨
雅楽寮
1
2
3
4
5
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

図版 2

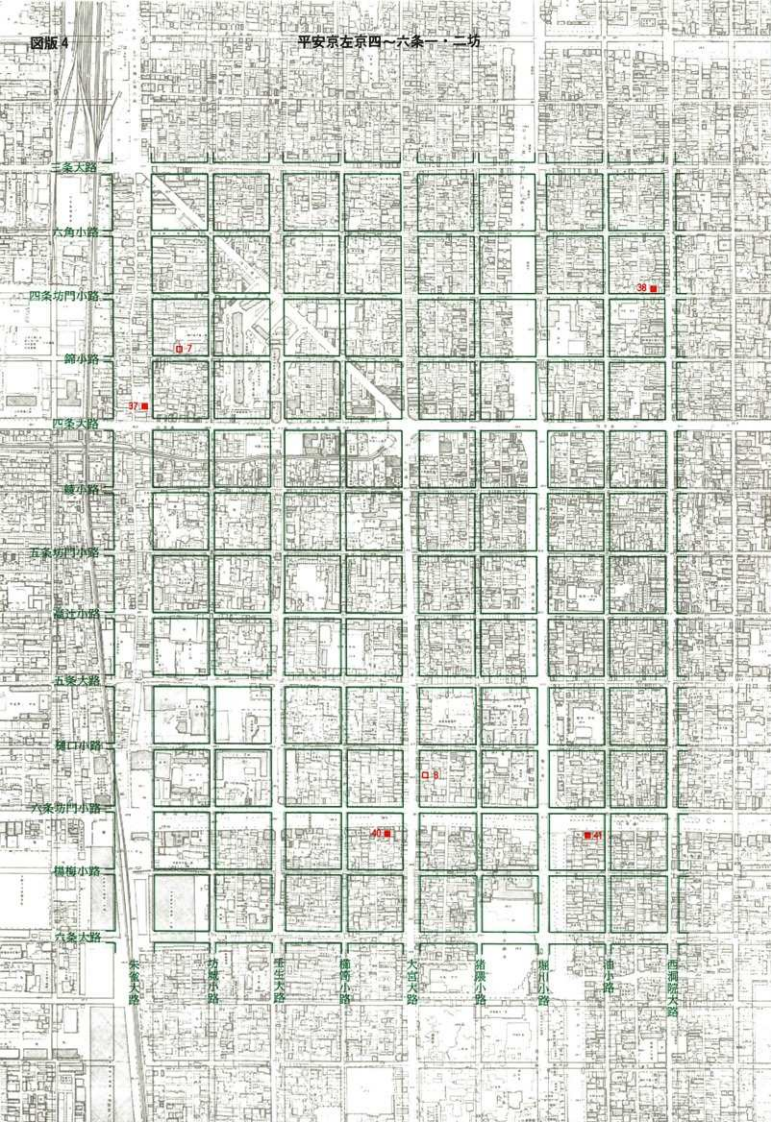
平安京左京北辺～三条一・二坊

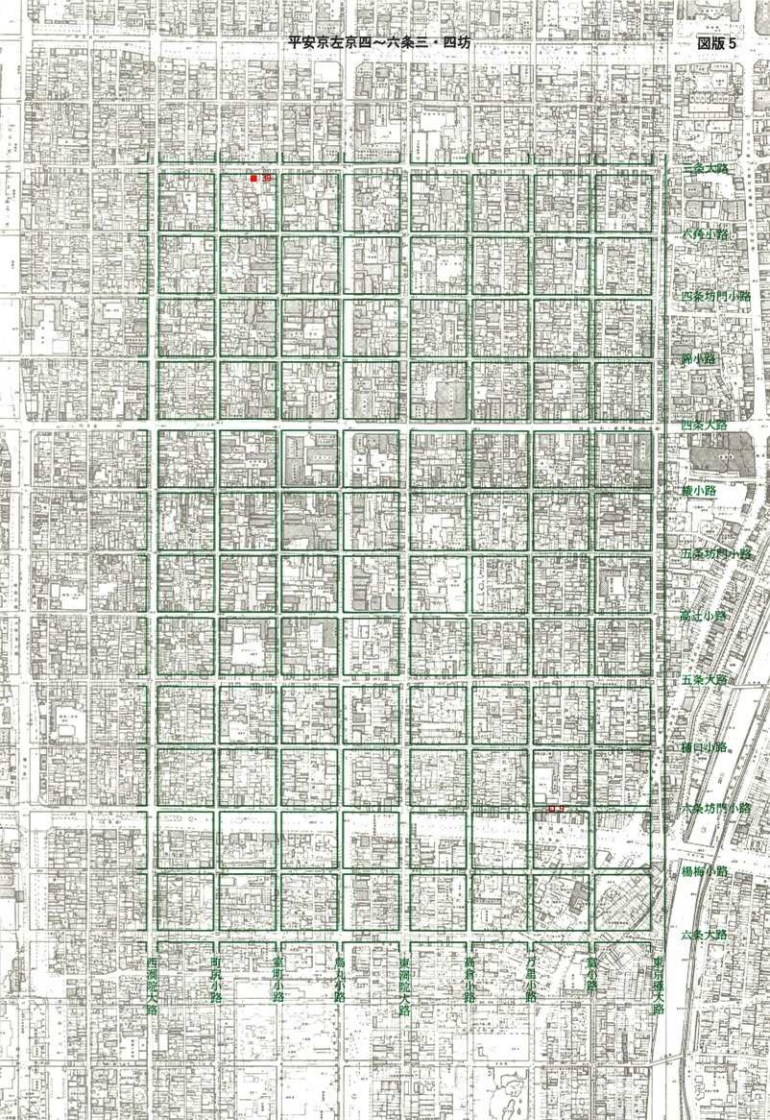



平安京左京北辺～三条三・四坊
図版 3
32
34
6
36
一条大路
北堀川小路
土御門大路
猪熊小路
上東大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
東洞院大路
烏丸小路
室町小路
高倉小路
東堀川小路
西堀川小路
油小路
東京極大路

図版4

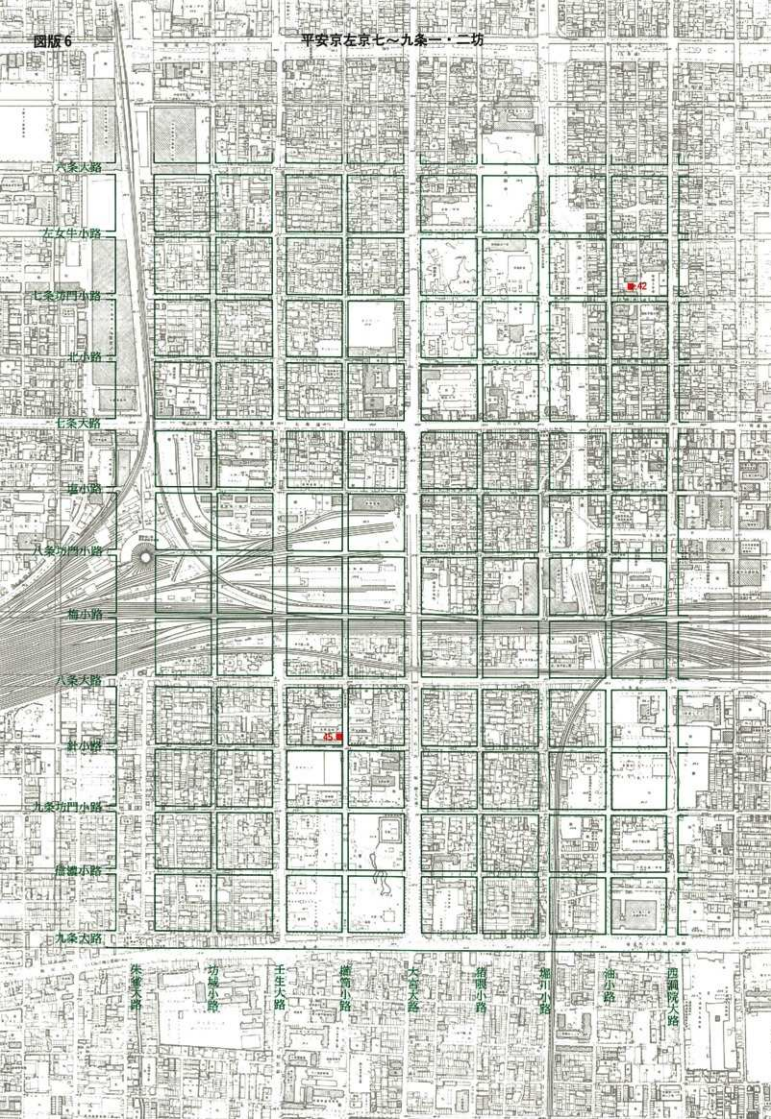
平安京左京四～六条一・二坊

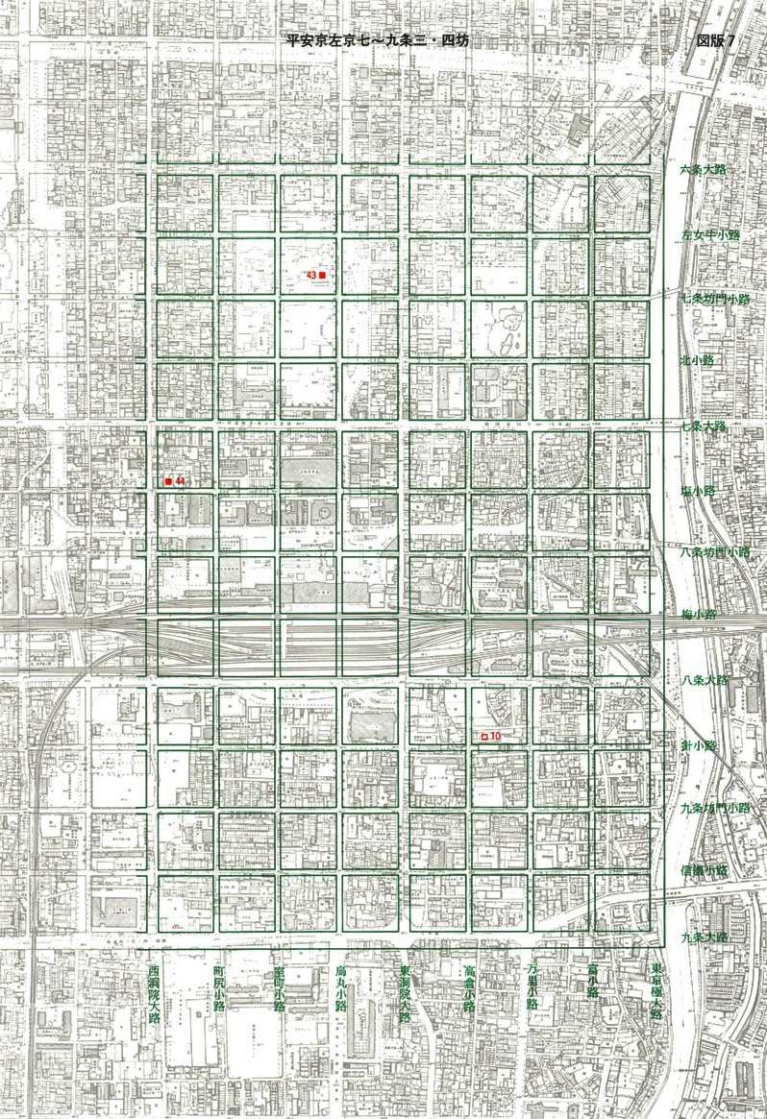



三条大路
八坂小路
四条坊門小路
綾小路
四条大路
錦小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
錦小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路

図版6

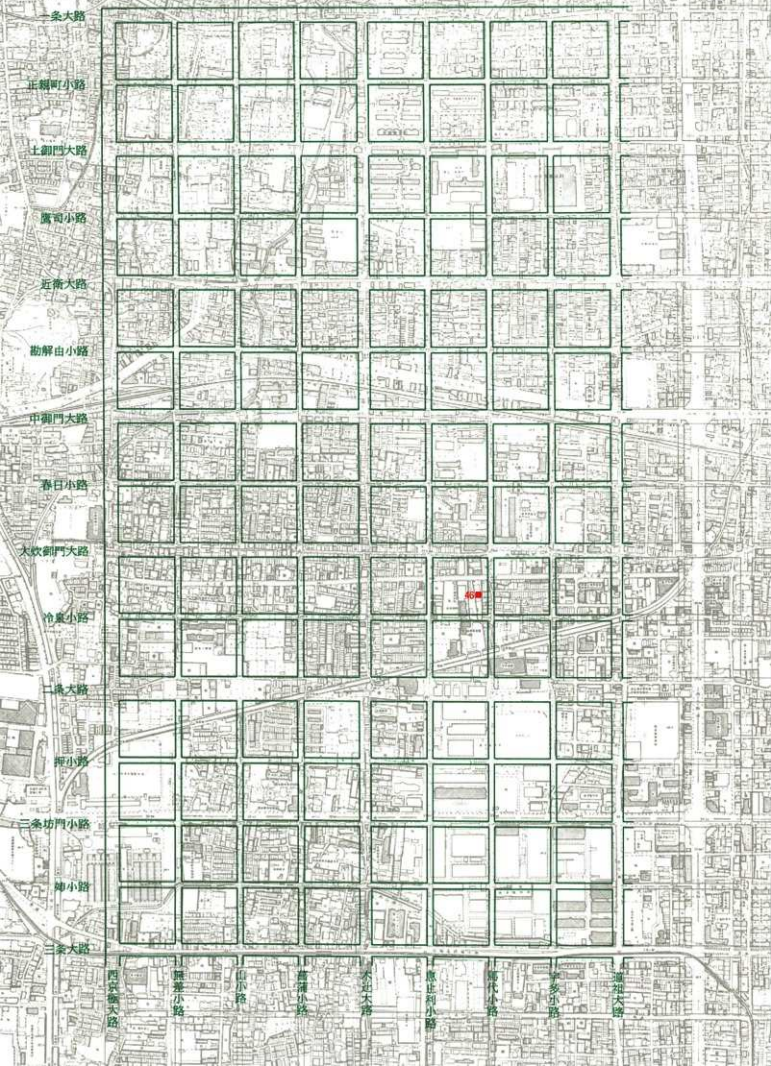
平安京左京七～九条一・二坊



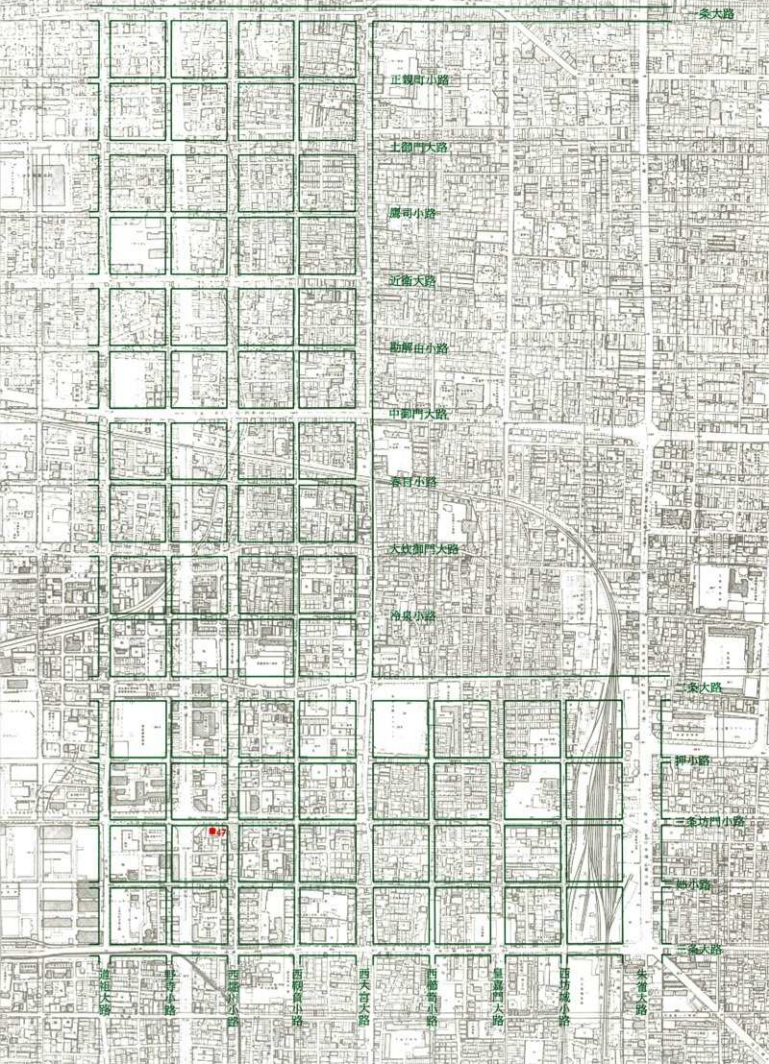

六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
油小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
塩小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
東京極大路
烏丸路
万里小路
高倉小路
東洞院大路
烏丸小路
室町小路
西洞院大路
43
44
10

図版 8

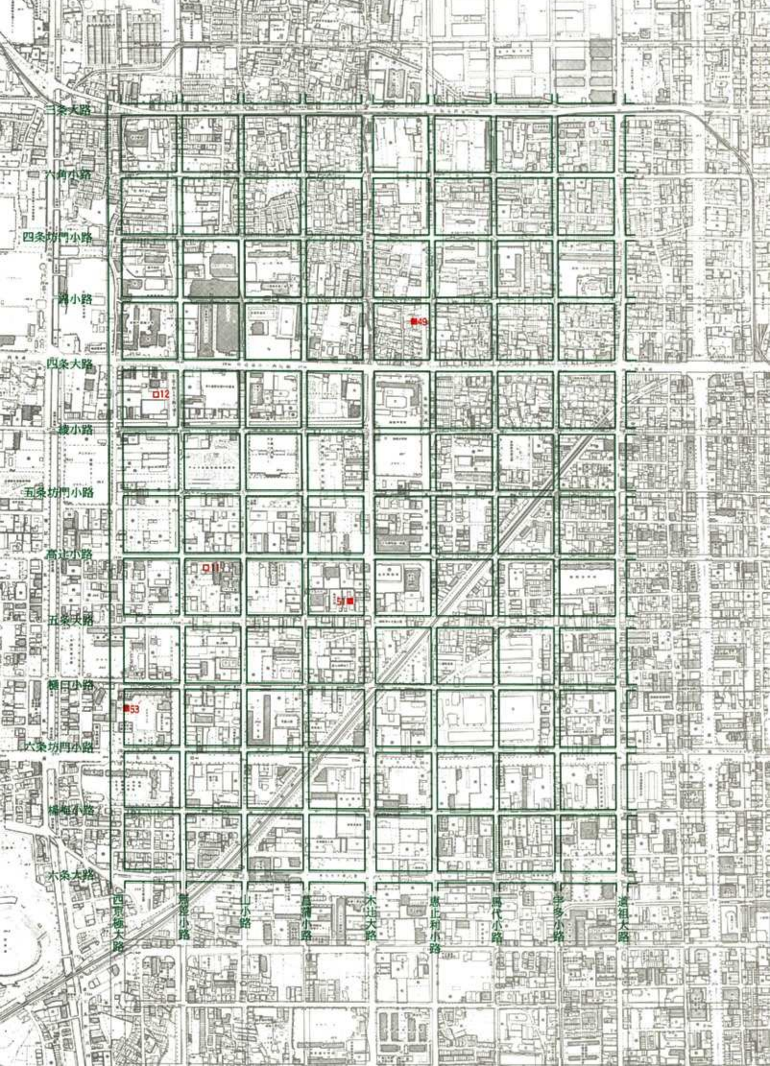
平安京右京北辺～三条三・四坊

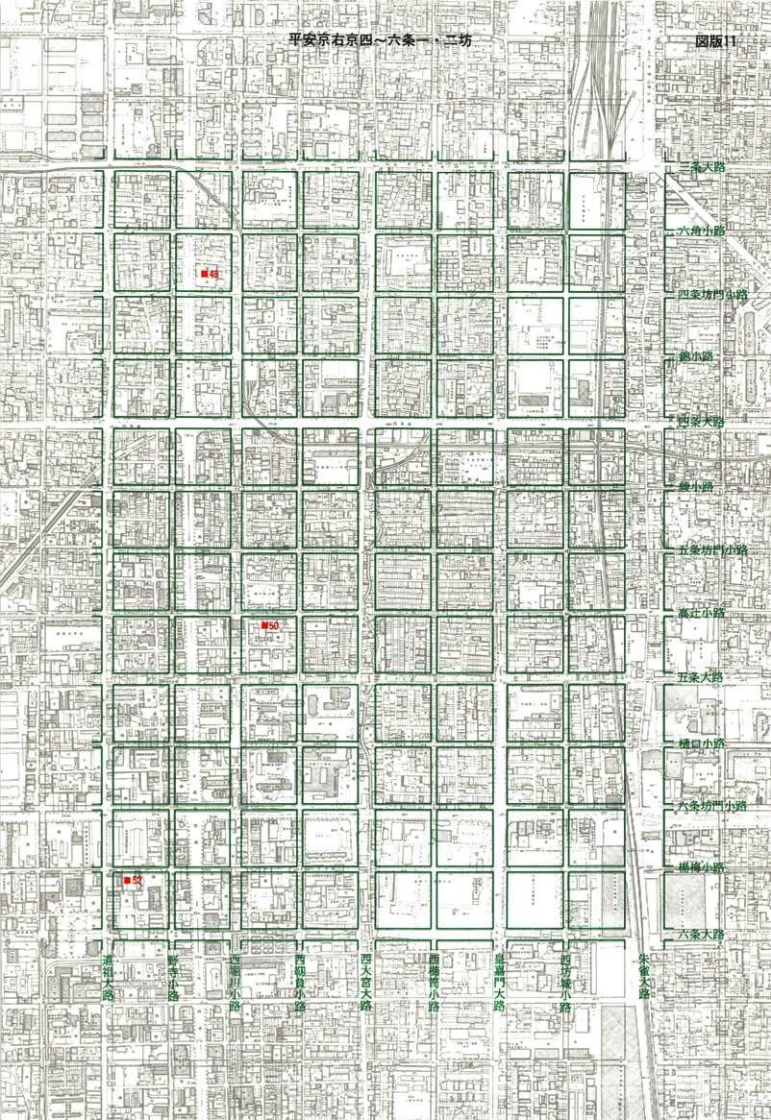


平安京右京北辺～三条一・二坊



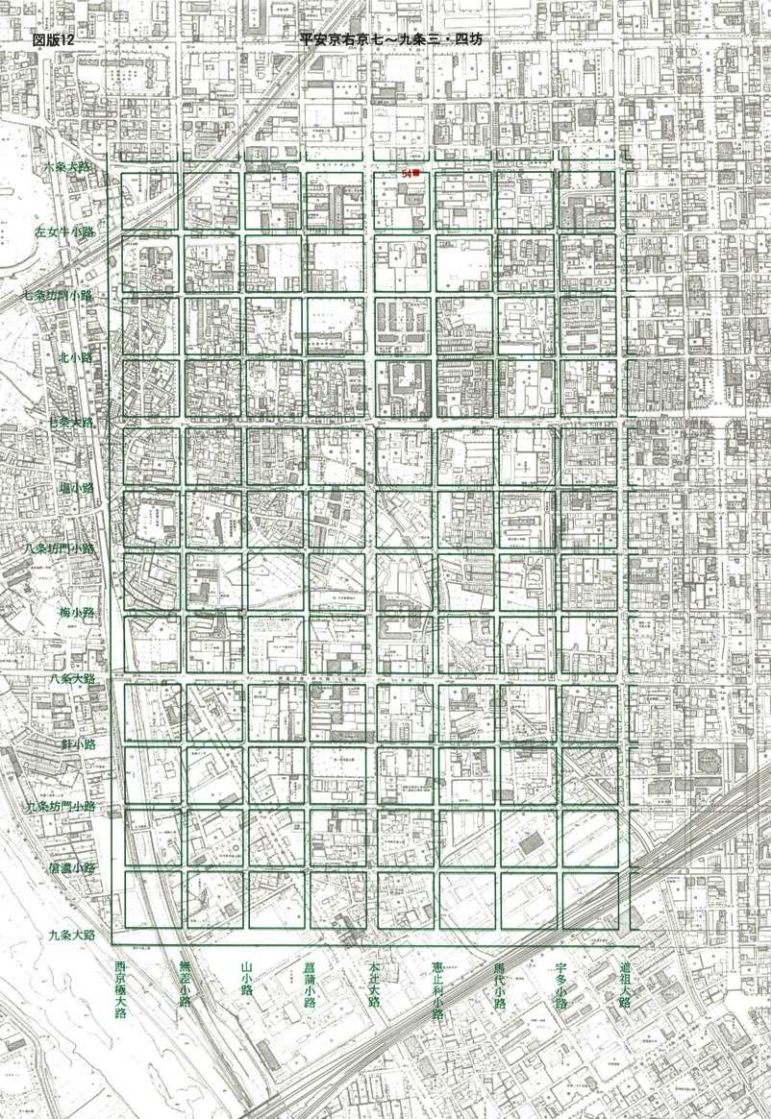
図版10　　平安京右京四～六条三・四坊

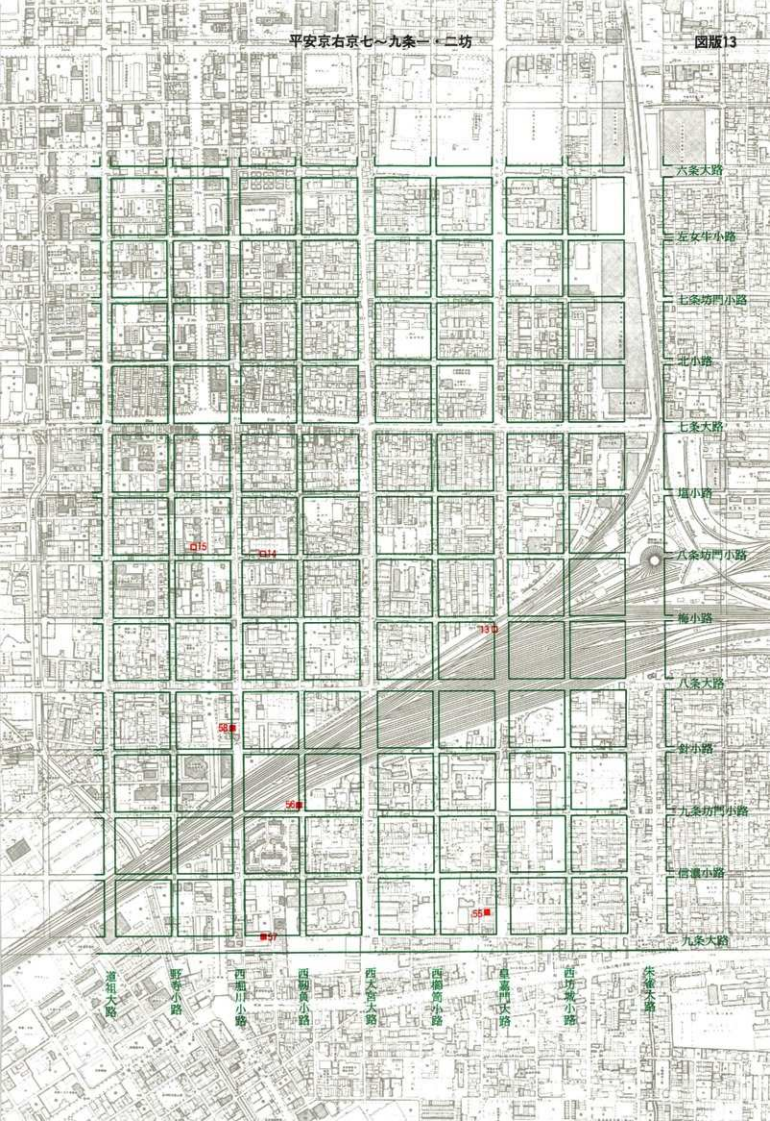



一条大路
六角小路
四条坊門小路
綾小路
二条大路
錦小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
■48
■50
■52
道祖大路
野寺小路
左馬寮小路
西朱雀小路
西大宮大路
西堀川小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

図版12

平安京右京七～九条三・四坊




六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
朱雀大路
西坊城小路
皇嘉門大路
西洞院小路
西大宮大路
西朱雀小路
西堀川小路
野寺小路
道祖大路
15
14
13
58
56
55
57

図版14

上ノ段町遺跡

広隆寺旧境内

60

59

和泉式部町遺跡

61

井戸ヶ尻遺跡

珍皇寺旧境内

75

76

六波羅政庁跡

74

法住寺殿跡

77

史跡 賀茂別雷神社境内

62

上終町遺跡

北白川廃寺跡

68

小倉町別当町遺跡

67

一乗寺松田町遺跡

一乗寺向畑町遺跡

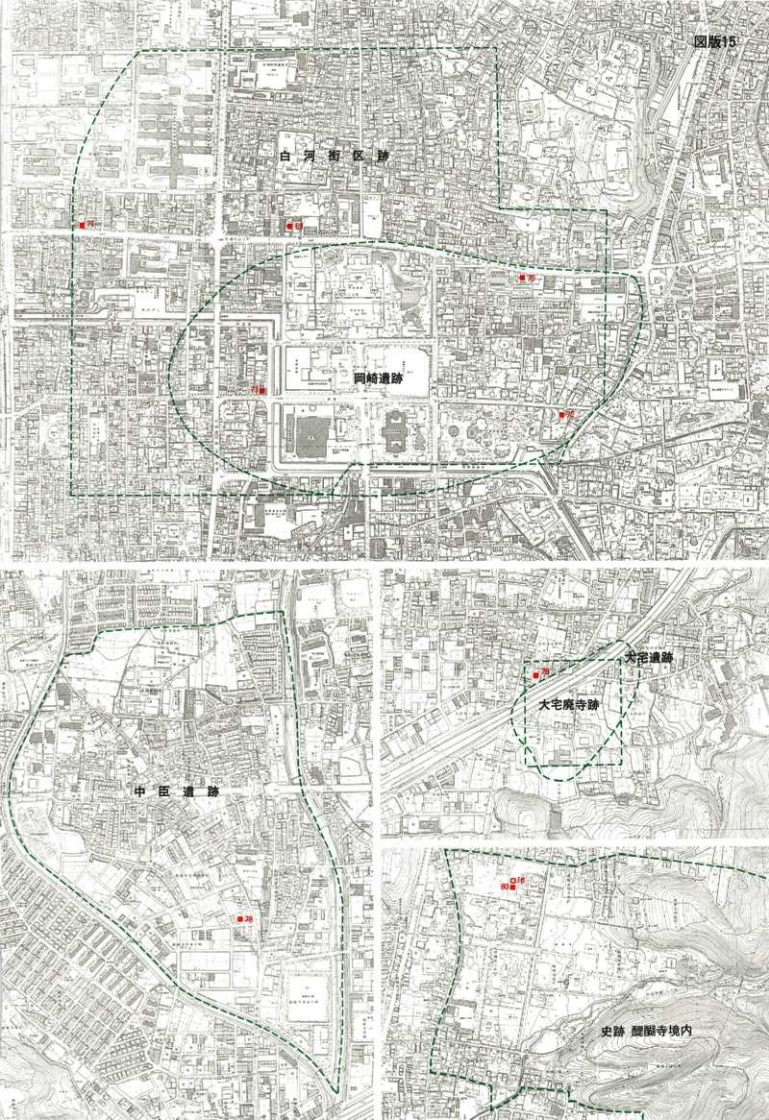
66

一乗寺西浦畑町遺跡

93

上久世遺跡

94


白河街区跡
岡崎遺跡
中臣遺跡
大宅遺跡
大宅廃寺跡
史跡 醍醐寺境内

図版16

伏見城跡

図版18

長岡京跡
100
99
96
98
97
95
94

京都市内遺跡試掘調査概報

平成６年度

発行日　平成７年３月31日
発　行　京都市文化観光局
編　集　京都市埋蔵文化財調査センター
住　所　京都市上京区今出川大宮東入元伊佐町265-1
　　ＴＥＬ (075) 441-5261
印　刷　真　陽　社